



2006年(平成18年)
7月号 (No. 734)

社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

URL●http://www.jac.or.jp
e-mail●jac-room@jac.or.jp

目次

平成18年度通常総会	1
平成17年度事業報告	5
収支計算書・正味財産増減 計算書・貸借対照表	6
財産目録	7
平成18年度事業計画	9
収支予算書・創立100周年 記念事業収支	10
定款の新旧対照表(案)	11
エヴェレスト、5月の驚きの山	5
支部だより	17
秋田/山形/岐阜/東海 活動報告	20
事業委員会/新土曜会	
図書紹介	21
図書受入報告	23
会務報告	24
ルーム日誌	25
会員異動	25
新入会員	26
INFORMATION	26

▶ 日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木 10~20時
水・金 13~20時
第2、第4土曜日 閉室
第1、第3、第5土曜日 10~18時
夏季休室 8月12日~8月20日

平成18年度通常総会 公益社団法人への移行準備進める

平成18年度通常総会が5月20日、東京・麹町の弘済会館で開かれた。総会には会員133人が出席し、①平成17年度事業報告及び収支決算・財産目録、②平成18年度事業計画及び収支予算、③創立100周年記念事業特別会計・平成17年度中間決算、④定款の一部変更、⑤監事選任、⑥平成18年度除籍者について審議し、いずれも原案どおり可決承認した(事業報告等の詳細内容は別掲)。

■会長あいさつ

社会に信頼される会をめざす

議案審議に先立ち平山善吉会長

はあらまし次のように挨拶した。
一、皆さまの協力を得て100周年記念事業を無事終了したことを感謝したい。まだ『百年史』、中央分水嶺踏査、学生部のヒマラヤ遠征などの事業が残っており、これらが終了した段階でまとめて報告したい。決算は若干のプラスになる見込みだ。

一、日本山岳会は、若者の登山離れ、高齢化、会員減少、これらが相まって登山意欲の衰退という厳しい状況にある。平均年齢は64歳であり、会員は2001年をピークに減少し続けている。17年度末の会員は5635人だった。1年

前と比べ、ちょうど1000人減少した。新入会員も1993年をピークに減少し、150人程度にとどまっている。このまま推移すれば2010年に5500人を割り込む見込みだ。会員の減少は会費収入の減少にもつながる。昨年度は日本山岳会創立以来はじめて税務調査を受けた。過去に遡っての詳細な調査だった。監督官庁からも会の運営について厳しい指摘を受けている。

一、こうした厳しい状況のなかで、言うだけではなく、会の実行力を高め、定款の改正や組織の統廃合、役員の若返り、事務局体制の整備、強化など、実行できることから実行していきたい。会員の51%が支部会員であることを考え、支部の活性化にも力を入れていく。登

山指導、文化・自然保護活動に対する支援などだ。支部長会議を7月にも上高地・山研で開催、また今年は年次晩餐会を東海支部の担当で、名古屋で行なう。学生部、青年部対策にも力を入れていく。青年部については5カ年を見通した海外登山の目標をつくりたい。高齢者対策も欠かせない。受益者負担を原則としながら、高齢者を対象にする新しい支援制度を考えたい。これらを通じ、日本山岳会の伝統と品格を失うことなく社会に信頼される、また登山界に親しまれる会として、新しい世紀に向かつて出発していきたい。

■17年度事業報告・収支決算

記念事業、無事終える

この日の総会には2850通の委任状が提出された。現在、在籍者は5635人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は有効に成立した。

事業報告・計画、また創立100周年記念事業特別会計中間決算、定款変更については吉永英明総務担当、収支決算・予算及び財産目録については賛田統重財務担当の各常務理事が説明した。

〔事業報告〕 100周年記念事業

が相次いだ。5月に東北ブロックで記念式典を開催したのを皮切りに6月に京岐北陸、7月に九州、8月に北海道など全国8ブロックで記念式典を開催、10月15日には東京で総合式典を開いた。総合式典にあわせて「山岳図書・絵画展」を開催。また『新日本山岳誌』を編集・発刊した。自然保護活動も活発で、自然保護委員会が高尾の森づくり、青森支部が白神山地育林事業、東海支部が猿投の森づくりを推進した。海外登山はマナスル遠征隊をはじめ、東海支部が第8次インドヒマラヤ登山隊、福井支部がジャナリズ峰登山隊、富山支部がギャジ・カン峰登山隊をそれぞれ派遣した。



平成18年度通常総会で挨拶する平山会長

〔収支決算等〕 収支決算は、収入が9081万円となり、予算を23万円上回った。会費・入会金収入は6674万円で予算額を315万円下回った。新入会員は180人を予定したが、150人にとどまった。事業収入は599万円で予算比381万円減。事業収入のなかで山研使用料収入が350万円の予算に対し167万円にとどまったのは、沢渡のがけ崩れで登山者が減少したためだ。その他事業収入は、いわゆるグッズの販売収入だが、250万円と予算を大きく下回った。

補助金収入280万円は高尾の森づくりに対する国土緑化推進機

構からの助成金。寄付金20万円は故渡辺兵力名誉会員のご遺族からのもの。秩父宮記念山岳賞基金に繰り入れた。敷金戻り収入は201号室と104号室の交換に伴うもの。100周年特別会計からは1378万円を繰り入れた。

支出総額は9323万円となった。うち事業費は5104万円、管理費は2954万円。建物建設購入支出1168万円は104号室の内装工事費。

これらの結果、当期支出合計は9323万円となった。次期繰越収支差額は848万円、期末正味財産合計額は4億2588万円で前期比883万円の増加。財産目録は前年に比べ大きな変化はないが、海外登山基金の預金をすべて定期預金に切り換えた。

これらに対し一力英夫監事から収支計算書等が正確かつ妥当であったことを認める監査報告があった。

■18年度事業計画・収支予算

年次晩餐会を名古屋で開催

〔事業計画〕 政府の「公益法人制

度の抜本的改革に関する基本方針」にしたがえば、社団法人は、平成20年度に特例社団法人となり、以降5年以内に公益社団法人となるか一般社団法人となるか選択し、内閣府に申請しなければならない。公益社団法人だと、独自の寄付金控除資格を得られる可能性もあり、日本山岳会は理事会において公益社団法人をめざすこととした。18年度は、その準備段階にはいる。事業計画は公益性を前面に押し出したものとなった。

▽公益的事業Ⅱ公益的事業を前面に打ち出すと同時に、日本山岳会の活動が東京だけではなく、全国的なものであるということで、支部の活動を積極的に取り入れた。宮崎支部が5月に少年補導登山を宮崎家裁から受託、山梨支部は6月に第2回山の博覧会「山を知ろう 山へ行こう」を開催、8月には、北海道支部が自然児学校、福井支部が親子登山、北九州支部が青少年登山教室、宮崎支部が子ども登山教室を相次いで開催する。10月には東海支部が知的障害者との登山をスペシャルオリンピックと名づけて行なう。2月には宮崎支部が県警の山岳救助を指導す

る。

自然保護事業も、公益事業の柱となっており「自然保護・山岳環境保全活動」として、北海道支部で高山植物盗掘防止パトロールを実施するほか、自然保護委員会の高尾の森づくり、青森支部の白神山再生育林事業、東海支部の猿投の森づくりを継続、さらに岐阜支部が小津権現山の遊歩道整備事業を受託、山陰支部は大山横手道上のブナ林育成事業を支援する。自然保護全国大会は10月に大山で行なう。環境省の「吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会」には自然保護委員会が関西支部とともに参加する。秩父宮記念山岳賞も公益事業ととらえて運営していく。

▽一般事業及び会員のための事業
 Ⅱ全国支部懇談会は10月7～9日に福井支部の担当で永平寺で行なう。年次晩餐会は12月2日、名古屋で実施する。支部で行なうのは初めての試みであり、多数参加してほしい。海外登山は、学生部がマナスルの北側にあるパンパリヒマールに遠征、また東海支部が冬期ロツェ南壁に挑戦するほか、「海外遠征5カ年計画」を検討す

ることとした。

〔収支予算〕 これらに対する予算は、収入を7331万円とした。前年度予算に比べ1727万円の減少。特定預金の取り崩し1000万円がなくなった。入金収入は300万円と同60万円の減少。通常会費収入も同350万円減の6200万円と見込んだ。事業収入は700万円とした。前年度予算比281万円の減少だが、実績と比較すると100万円増の目標となる。支出は前年度予算比1719万円減の7419万円。事業費は1583万円減の4378万円。管理費は、福利厚生費が社会保険関係費の増加で大幅増となったが、全体としては減少となった。当期収支差額は87万円のマイナス。18年度から社団法人に新会計基準が適用される。それに伴い、これまで任意だった減価償却を実施しなければならなくなった。どういう形で実施していけばいいのか検討し、年度末にきちんと処理したい。

■100周年記念事業収支

募金関連収入は7177万円の

100周年記念事業特別会計は平成15年度から開始した。来年3月で終了としたい。承認いただきたいのは平成15～17年度の収支決算である。

収支合計額は1億346万円。

募金関係収入は募金、寄付金、企画協賛収入の3つで計7177万円となった。会員募金としては、3454人の会員から募金をいただいたあと、有志募金として365人から1700万円を募金してもらった。企業からは105社から計2964万円の寄付をいただいた。また学生からは23校から計321万円をいただいた。企画協賛収入は中央分水嶺踏査に関する新聞企画に協賛しての収入だ。

支出は登山隊助成780万円など。施設費用として1378万円を一般会計に繰り入れ、104号室の改装などに充てた。晩餐会は、晩餐会の会費収入1380万円だけではまかないきれず、特別会計から1710万円を支出した。977人が参加し、うち料理・会場費等1470万円。

まだ『百年史』と中央分水嶺踏査事業を残しており、2444万円を繰り越した。

■定款変更

理事削減、総会を年2回に

昨年度から実施している組織改革で「理事会」を業務執行の意思決定機関、「委員会」を事業実施機関と位置づけた。これに伴い理事は委員長を兼任しないこととし、意思決定の迅速化のため理事を減員した。当初、定款変更は、これだけの予定だったが、文部科学省から種々指摘され、字句の修正も含め大幅な改正となった。

おおきな改正点は、事業計画・収支予算を理事会の議決だけでなく総会の議決を経て文部科学大臣に提出するようにしたこと。これにより、通常総会を少なくとも年2回実施しなければならなくなった。また、会員の除名、役員・評議員の解任の際に対象者に弁明の機会を与えることを明文化した。

■監事選任・除籍予定者

除籍予定者は96人

5号議案は監事（補欠1名）選任の件。一力英夫監事が辞任され



総会で質問する会員

ため後任に竹中彰会員(12981)を選任した。

続いて6号議案。除籍対象者の件である。平成18年度の除籍対象者は96人。会費を3年間滞納した人が除籍の対象となる。実際の除籍者は、13年度50人、14年度66人、15年度63人、16年度56人、17年度70人と推移している。これに関し、知人に声をかけ会費を納めて留まるよう勧めてほしいという要請があった。3年間の会費を一度に払わなくてもよく、1年でも納入すれば除籍対象から除外される。紹介者は適切に対処してほしいという要望もあった。

■質疑応答

会友制にきちんとした対処を

石田稔郎会員(6065) 事業委員会で行なっている韓国登山の費用がずいぶん高いと思う。なぜ高いのか。費用の内訳はどうなっているのか。収支計算書を明らかにしてほしい。

平山会長 事業委員会から報告をもらうことになっている。費用内容をご覧いただきたい。

柴田篤志会員(4932) 支部に「会友」という制度を設けているところがある。会費を徴収しているところもあるようだ。日本山岳会の規約にあるのか。収入は日本山岳会の収入となっているのか。山研利用などの際の資格はどうなっているのか。

平山会長 支部独自の方針で会友制度を設けているようだ。日本山岳会の会則にはない。収入は本部の収入とはなっていない。どのようになっているのか、支部長会議などで話し合っているところだ。

山田二郎会員(3473) 公益事業を推進していくことは望ましい

ことと思う。とくに、今年は雪崩による事故が多かった。雪崩に対する講習会をぜひやってほしい。支部で実施するのもいいし、日山協や労山と協力してやるのでもいい。

中野慶一会員(12473) 収支予算のなかで予算額を前年度予算と比較しているが、これは前年度決算額と比較させてほしい。

賛田常務理事 従来の形式でやってきたが、分かりにくいのは確かだ。検討したい。

塩澤厚会員(9086) 事業計画で「海外遠征5カ年計画」を検討すると表明されたが、中村保会員が苦勞して踏査・紹介された東チベット地域をぜひ遠征対象に加えてほしい。

石田会員 100周年記念事業収支のなかで、カシオ時計の収入と支出の差額はなにか説明してほしい。

吉永常務理事 100周年を記念し記念品を頒布した。収入は会員への売り上げ、支出はカシオからの仕入れである。企画・事務費等の経費として差額をいただいた。

芳賀孝郎会員(4637) 100周年記念募金委員会から、みなさ

まのご協力に感謝申し上げたい。委員長としては7000万円の大会上に乗せたかった。募金関係のなかで420万円が協賛収入となっているのはなぜか。

吉永常務理事 サントリーから新聞広告協賛金として420万円いただいた。企業側の事情で募金として処理できなかった。

柴田篤志会員 記念式典の会場となったプリンスホテルから寄付はあったか。招待者のお祝い金はどう処理したか。

平山会長 西武からは式典費用を値引きしていただいた。招待者からのお祝い金は寄付として処理した。

■懇談会

総会終了後、午後4時から懇親会を開いた。山田名誉会員の音頭で乾杯し和やかな歓談が続いた。

中締めは、和田豊司東海支部長。はじめて名古屋で開催する年次晩餐会への決意を語るとともに東海支部で行なっているユニークな「万歳」を披露し、会場をおおいに盛り上げた。

(文・高橋重之、写真・神長幹雄)

2月25～26日 支部長・支部事務局担当者会議 (総務) 富士研修所
3月2日 講演会「ファミール最奥部に行く」(海外) 学習院
3月17日 第34回山岳史懇談会 (図書) 本会

2. 登山施設の運用、その他登山のための適切な事業

- * 上高地山岳研究所の運用
- * 受入れ資料保管
- * 各博物館、美術館との提携強化
- * 海外遠征の記録、会合、行事等の記録、フィルムのデジタル化による保存

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導

- * 7月 全国山岳遭難対策協議会への出席 (滋賀県)
- * 通年 日山協・労山・都岳連との合同調査活動

4. 自然保護活動の推進

- * 環境行政等への意見書、政策提言の発信
- * 自然保護委員会による自然保護知識啓発のための自然観察山行
- * 自然保護委員会による「高尾の森づくり」
- * 白神山地育林事業
- * 狼投の森づくり
- * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」隔月刊行

5. 機関誌等の発行

- * 山岳第100年 (2005年) の発行
- * 会報719号～730号の発行
- * インターネット・ホームページの更新
- * 海外向英文誌「Japanese Alpine News」発行
- * 青年部会報「きりぎりす」発行
- * 医療委員会「山の救急医療ハンドブック」発行
- * 所蔵図書・絵画展目録発行
- * 資料映像委員会「写真で見る日本山岳会の100年」発行

6. 国内及び外国山岳団体との情報交換

- * 国内関係団体 (日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・HATJ・その他) との連絡
- * 海外登山団体との機関誌の交換及び情報誌の購入

7. 海外登山等

- * 4月15日～6月1日 マナスル登山隊2005
- * 7月13日～8月17日 第8次インドヒマラヤ登山隊2005 (東海支部)
- * 9月3日～9月19日 礼那日字峰 (ジャナリツ峰) 登山隊 (福井支部)
- * 9月4日～10月16日 ギャジ・カン峰登山隊 (富山支部)

8. 百周年記念事業の推進

- * 百年史の編集・発刊
- * 総合式典、ブロック式典の実施
- * 「新日本山岳誌」の編集・発刊
- * 所蔵山岳図書、絵画展
- * 中央分水嶺踏査の完遂
- * 各種フォーラム、シンポジウムの開催
- * 海外登山

9. その他目的を達成するために必要な事業

- * 山岳図書の整備
- * 山研ミニ水力発電装置稼働運営
- * 海外登山基金による助成 (4隊)
- * 第8回秩父宮記念山岳賞の授与
- * その他

(社)日本山岳会 平成17年度事業報告

平成17年4月1日～平成18年3月31日

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研修会、講演会、展覧会、及びシンポジウムの開催

4月9～10日	自然保護全国集会 (自然保護)	高尾の森
4月16～17日	学生部所属大学山岳部新入部員歓迎会 (学生)	奥多摩
4月21日	連続講演会第4回「村山雅美名誉会員」(資料映像)	東京体育館
4月29日	山研開所 (山研)	上高地
5月20日	支部長懇談会 (総務)	弘済会館
5月21日	支部長会議 (総務)	〃
5月21日	通常総会 (総務)	〃
5月21～22日	第25回日本登山医学シンポジウム (医療)	鹿屋体育大学
5月28～29日	東北ブロック記念式典 (青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島)	猪苗代
6月4～5日	新入会員のための徳本峠越えとウエストン祭 (山研)	上高地
6月11～12日	京岐北陸ブロック記念式典 (京都、岐阜、福井、石川、富山支部)	福井市
6月18～19日	探索山行「菅平高原の地形と植生の特徴を探る」(科学)	菅平高原
6月22～25日	若葉山行 (事業)	青森白神岳
7月2日	クライミング集会 (学生)	江戸川
7月4日	講演会「山での救急蘇生を考える」(医療)	東京体育館
7月14～15日	全国山岳遭難協議会 (指導)	福島市
7月16～17日	九州ブロック記念式典 (福岡、北九州、東九州、熊本、宮崎支部)	えびの高原
7月16～18日	東北の山を歩く (事業)	鳥海山・栗駒山
7月21日	気象講座「白馬岳での定点観測」(科学)	本会
7月22日	創立100周年記念シンポジウム (事業)	東京体育館
7月28～29日	ミニ水力発電点検 (山研)	上高地
8月7～9日	山の自然学研究会 (自然保護)	上高地
8月21～22日	フォーラムIN 後援 (自然保護)	早池峰
8月26日	北海道ブロック記念式典 (北海道)	北海道
8月27～28日	上高地星の会 (山研)	上高地
9月2～3日	自然観察会 (自然保護)	上野村
9月1日	名誉会員を囲む会	本会
9月10日	支部長・支部事務局担当者会議 (総務)	本会
9月17～18日	中部日本ブロック記念式典 (越後、信濃、山梨、静岡支部)	関川村
9月17～18日	オータムコンサート (山研)	上高地
9月18～19日	中国ブロック記念集会 (山陰、広島支部)	広島市
10月5～9日	紅葉山行 (事業)	韓国雪岳山
10月8～18日	創立100周年記念山岳図書・絵画展 (図書、資料映像)	丸善
10月15日	創立100周年記念総合式典 (総務)	新高輪プリンスホテル
10月16日	創立100周年記念総合式典記念山行 (事業)	高尾山
10月29～30日	東海ブロック記念式典 (東海)	名古屋
11月3日	連続講演会第5回「松丸秀夫名誉会員」(資料映像)	東京体育館
11月5～6日	関西ブロック記念式典 (関西支部)	高野山
11月5日	山岳博物館連絡会議 (資料映像)	本会
11月5日	公開セミナー「通信機器の進歩と応用」(科学)	東京しごとセンター
11月5～9日	世界遺産熊野古道を歩く (事業)	和歌山県熊野
11月6日	山研閉所 (山研)	上高地
11月13日	学生部所属大学山岳部マラソン大会 (学生)	皇居
11月17日	第14回山を語る (図書)	本会
11月19日	新入会員オリエンテーション (総務)	本会
12月3～4日	レスキュー講習会 (青年)	千代田湖
12月30～1月3日	山研保守状況チェックの為の年末年始開所 (山研)	上高地
1月7～9日	スキー懇親会 (事業)	岩手県雫石
2月4～5日	第3回雪崩講習会「雪を知る」(指導)	梶池
2月6日	山の怪我の処置と搬送法 (医療)	東京体育館
2月8日	雪崩講習会「机上講座」(指導)	東京体育館
2月8～9日	アイスクライミング集会 (学生)	ハッペ
2月11日	シンポジウム「日本山岳会のこれからを考える」(フォーラム)	日本青年館
2月11～12日	雪崩講習会「実地講習」(事業、指導)	白樺湖
2月18日	マナスル初登頂50周年記念シンポジウム	東京体育館

収 支 計 算 書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

火災保険料	340,000	177,190	162,810
修繕費	100,000	0	100,000
租税公課	648,200	1,749,400	-1,101,200
光熱水料費	800,000	660,109	139,891
電話料	500,000	324,825	175,175
会議費	180,000	31,526	148,474
什器備品費	100,000	0	100,000
振替手数料	800,000	614,410	185,590
銀行振込手数料	0	65,185	-65,185
福利厚生費	405,000	375,523	29,477
事務所管理費	1,640,000	1,248,144	391,856
その他管理費	2,800,000	2,548,714	251,286
負担金	80,000	40,000	40,000
退職金	0	0	0
賃借料	3,430,000	4,374,000	-944,000
雑費	900,000	488,454	411,546
管理費計	29,273,200	29,541,568	-268,368
3 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
建物建設購入支出		11,680,000	-11,680,000 (注)1
固定資産取得支出計	0	11,680,000	-11,680,000
4 特定預金支出			
長期計画積立金支出	0	0	0
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	200,000	800,000
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	766,000	-766,000
退職給付引当金支出	0	0	0
特定預金支出計	1,000,000	966,000	34,000
5 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	91,383,200	93,230,253	-1,847,053
当期収支差額(A)-(C)	-798,200	-2,412,675	1,614,475
次期繰越収支差額(B)-(C)	10,095,832	8,481,357	1,614,475

(注) 1 104号室内装工事 ￥11,680,000

正味財産増減計算書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

科 目	金 額	
I 増加の部		
1 資産増加額		
秩父宮記念基金	200,000	
終身会費積立金	766,000	
建物建設購入	11,680,000	
土地購入(注)1	1,311,580	13,957,580
2 負債減少額	0	0
増加額合計		13,957,580
II 減少の部		
1 資産減少額		
当期収支差額	2,412,675	
棚卸資産	1,084,492	
什器備品	760,000	
建物除去(注)1	311,580	
敷金	551,550	5,120,297
2 負債増加額	0	0
減少額合計		5,120,297
当期正味財産増加額		8,837,283
前期繰越正味財産額		417,043,151
期末正味財産合計額		425,880,434

(注) 1 201号室と104号室の交換による差

貸 借 対 照 表

平成18年3月31日現在

科 目	金 額
I 資産の部	

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	2,013	2,987	
2 会費・入会金収入				
入会金収入	3,600,000	2,900,000	700,000	
復活入会金収入	0	80,000	-80,000	
通常会費収入	65,500,000	62,996,000	2,504,000	
終身会費収入	800,000	766,000	34,000	
会費・入会金収入計	69,900,000	66,742,000	3,158,000	
3 事業収入				
広告料収入	1,600,000	1,591,500	8,500	
印税収入	10,000	0	10,000	
刊行物売上収入	200,000	226,590	-26,590	
山研使用料収入	3,500,000	1,671,188	1,828,812	
その他事業収入	4,500,000	2,508,313	1,991,687	
事業収入計	9,810,000	5,997,591	3,812,409	
4 補助金等収入				
補助金収入	0	2,800,000	-2,800,000 (注)1	
5 寄付金収入				
寄付金収入	0	200,000	-200,000 (注)2	
募金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	200,000	-200,000	
6 雑収入				
受取利息	70,000	15,513	54,487	
雑収入	800,000	728,911	71,089	
雑収入計	870,000	744,424	125,576	
7 特定預金取崩収入	10,000,000	0	10,000,000	
8 敷金等戻り収入				
敷金戻り収入		551,550		
9 繰入金収入				
百周年会計繰入金収入		13,780,000		
当期収入合計(A)	90,585,000	90,817,578	-232,578	
前期繰越収支差額	10,894,032	10,894,032	0	
収 入 合 計(B)	101,479,032	101,711,610	-232,578	

(注) 「社団法人国土緑化推進機構」助成金 ￥2,800,000

(注) 2 故渡辺兵力名誉会員ご遺族寄付金 ￥200,000

(秩父宮記念山岳賞基金に繰入)

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II 支出の部				
1 事業費				
出版費	10,900,000	11,454,480	-554,480	
図書管理費	400,000	214,657	185,343	
調査研究費	1,860,000	1,636,140	223,860	
指導費	1,400,000	1,077,239	322,761	
支部関係費	12,000,000	11,745,407	254,593	
海外諸関係費	350,000	73,900	276,100	
海外登山補助費	1,600,000	1,500,000	100,000	
山岳研究所事業費	3,000,000	2,282,103	717,897	
山岳研究所運営費	2,650,000	2,547,179	102,821	
ミニ水力発電	200,000	89,515	110,485	
その他事業費	19,850,000	13,478,198	6,371,802	
印刷・製本費	400,000	380,649	19,351	
刊行物発送費	5,000,000	4,563,218	436,782	
事業費計	59,610,000	51,042,685	8,567,315	
2 管理費				
給料手当	13,000,000	13,989,100	-989,100	
文具消耗品費	450,000	179,463	270,537	
印刷製本費	1,100,000	1,252,547	-152,547	
旅費交通費	800,000	740,560	59,440	
通信運搬費	1,200,000	682,418	517,582	

未収会費	5,196,000	5,424,000	
合 計	11,113,062	8,873,639	
前受会費	116,000	84,000	
預り金	103,030	288,282	
仮受金	0	20,000	
合 計	219,030	392,282	
次期繰越収支差額	10,894,032	8,481,357	

4. 固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建 物	164,446,465	0	164,446,465
什 器 備 品	8,824,982	0	8,824,982
合 計	173,271,447	0	173,271,447

財 産 目 録

平成18年3月31日現在

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高	155,083		
振替貯金 千代田四番町郵便局	813,695		
普通預金 りそな銀行市ヶ谷支店	974,878		
〃 東京三菱銀行市ヶ谷支店	1,149,683		
〃 中央三井信託銀行本店	297,584		
〃 みずほ銀行市ヶ谷支店	4,586		
〃 三井住友銀行飯田橋支店	40,614		
〃 UFJ銀行新宿支店	7,933		
通常貯金 千代田四番町郵便局	5,583		
未収会費452名	5,424,000		
棚卸資産（注）1	1,491,170		
流動資産合計		10,364,809	
2 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託 中央三井信託銀行	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2) その他の固定資産（注）2			
土 地	74,953,705		
建 物	164,446,465		
敷 金	288,450		
什器備品	8,824,982		
長期計画準備金			
（定期預金千代田四番町郵便局）	5,043,000		
（定期預金東京三菱市ヶ谷）	18,003,305		
（普通預金東京三菱市ヶ谷）	6,200,000		
（普通預金みずほ市ヶ谷）	800,000		
秩父宮記念基金			
（定期預金UFJ新宿）	15,200,000		
終身会費積立金			
（普通預金みずほ市ヶ谷）	20,548,000		
海外登山基金			
（定期預金りそな市ヶ谷）	33,600,000		
（定期預金三井住友飯田橋）	30,000,000		
（定期預金みずほ市ヶ谷）	30,000,000		
退職引当預金			
（定期預金りそな市ヶ谷）	4,691,620		
その他固定資産合計	412,599,527		
固定資産合計		420,599,527	
資産合計			430,964,336
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費平成18年度会費7名分	84,000		
預り金職員に対する源泉所得税その他	288,282		
仮受金	20,000		
流動負債合計		392,282	
2 固定負債			

1 流動資産			
現金	155,083		
振替貯金	813,695		
普通預金	2,480,861		
定期預金	0		
未収会費	5,424,000		
棚卸資産	1,491,170		
流動資産合計		10,364,809	
2 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他の固定資産			
土地	74,953,705		
建物	164,446,465		
敷金	288,450		
什器備品	8,824,982		
長期計画準備金	30,046,305		
秩父宮記念基金	15,200,000		
終身会費積立金	20,548,000		
海外登山基金	93,600,000		
退職引当預金	4,691,620		
その他の固定資産合計	412,599,527		
固定資産合計		420,599,527	
資産合計			430,964,336
II 負債の部			
1 流動負債			
前受会費	84,000		
預り金	288,282		
流動負債合計	20,000		
2 固定負債			
退職給与引当金		392,282	
固定負債合計	4,691,620		
負債合計		4,691,620	
III 正味財産の部			5,083,902
正味財産			425,880,434
（うち基本金）			(8,000,000)
（うち当期正味財産減少額）			(8,837,283)
負債および正味財産合計			430,964,336

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。
- 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の72%に相当する額を計上している。
- 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費、預り金及び仮受金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記3に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減額及び残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託				
（中央三井信託銀行）	8,000,000	0	0	8,000,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現金預金	5,917,062	3,449,639	

鳥 (カット原画)	墨絵	石井 鶴三	本 会
メールドグラス	エッチング		本 会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ遠望	エッチング	シュラギントワ	本 会
ユングフラウ	油	山里 寿男	伯耆国山岳美術館
瀧沢より北穂高	水彩—6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
初夏の槍ヶ岳	油—10	中村 清太郎	本 会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎 千代二	本 会
北穂高岳滝谷	油—25	足立 源一郎	本 会
或朝の槍ヶ岳	油—25	足立 源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油—25	足立 源一郎	本 会
朝の槍ヶ岳	油—P8	足立 源一郎	本 会
タンボチエの僧院	水彩—4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩—4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油—12	後藤 三男	本 会
早朝の上高地山岳研究所	版画—8	松田 敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩—10	松田 敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画—8	鈴木 正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバナルワ峰暮色	油—10	神原 忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山 晩霞	本 会
上高地秋景	油—F20	後藤 三男	上高地山岳研究所
マチャブチャレ	油—20	武井 清	本 会
朝霧	水彩—8	越智 英夫	本 会
白樺の林	油—6	茨木 猪之吉	本 会
麓春	油—P50	倉員 辰雄	本 会
ヒマヤラダーズリにて	油—F4	上野 香香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油—30	武井 清	本 会
安曇野の春	油—30	後藤 三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油—30	藤江 幾太郎	本 会
アルバータ	油—6	レオン・アマン	本 会
ケルン	油—6	金光 義朗	上高地山岳研究所
山	油—6	辰沼 広吉	本 会
アルバータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本 会
題名不詳 24枚	油—10	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 8枚	油—6	茨木 猪之吉	本 会
題名不詳 12枚	水彩	茨木 猪之吉	本 会
スケッチブック	32冊	茨木 猪之吉	本 会
ロンブクよりエベレスト	版画	H. ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木 正俊	本 会
穂高連峰	版画	小暮 真望	本 会
安曇野と常念岳	版画	小暮 真望	本 会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮 真望	本 会
谷川岳	版画	小暮 真望	本 会
シダゴ山 晩秋	版画	鈴木 正俊	本 会
檜洞丸山荘	版画	鈴木 正俊	本 会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧 潤一	本 会

(他の絵画, 写真 省略)

2. 図 書

和 書	平成17年度受入冊数	114冊	蔵書計	11,287冊
洋 書	平成17年度受入冊数	12冊	蔵書計	3,772冊

3. フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスに立つ」 他
ビデオ	280点	「映像史 ヒマラヤへの道」 他

社団法人 日本山岳会 平成17年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成18年4月7日

社団法人 日 本 山 岳 会

監 事 一 力 英 夫

監 事 山 本 健一郎

退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			5,083,902
			425,880,434

(注) 1 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	「山岳」総索引、「山岳」覆刻版 等	710,520
服飾品、その他	クラブタイ、ワッペン 等	780,650
合 計		1,491,170

(注) 2 その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A. 事務所および土地		
場所	東京都千代田区四番町5番4号	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
	(事務所) 区分所有建物1階部分103.32㎡(専有部分)	
	宅地持分1,124.56㎡×339/10,000	
	=38.122584㎡	
	(図書室) 区分所有建物1階部分55.22㎡(専有部分)	
	宅地持分1,124.56㎡×176/10,000	
	=19.792256㎡	
	(104号室) 区分所有建物1階部分80.36㎡(専有部分)	
	宅地持分1,124.56㎡×261/10,000	
	=29.351016㎡	
	計238.9㎡宅地持分87.265856㎡	
		121,400,170
B. 上高地山岳研究所		
場所	長野県松本市安曇4469番地1	
構造	木造2階建地下1階 (一部コンクリート造)	
	1棟 274.09㎡	
		118,000,000
	合 計	239,400,170

2. 什器備品

品 名	取得年月日	取得価格	所 在
内移動書架一式 コンパックル	S53.02.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル(木製2台)	52.09.28	250,000	図書室
ライティングビューロー(木製)	54.06.23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット(スチール製)	56.08.08	254,000	事務所
書棚(木製2段)	56.12.22	500,000	図書室
16mm 映写機 16-CL(MO)	61.05.13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62.09.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	H02.07.19	587,932	事務所
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	05.03.20	250,000	山 研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	05.03.20	280,000	山 研
ナショナルBS付ビデオ HV-BS50S	05.03.20	250,000	山 研
ミニ水力発電装置	11.11.30	3,816,750	山 研
合 計		8,824,982	

財産目録記載外のその他物品リスト(主として受贈品)

1. 絵 画

題 名	種類・号数	作 者 名	掲載・保管場所
シュラギントワ・アトラス	リトグラフ	シュラギントワ兄弟	本 会
白馬岳	油—A50	中村 清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油—A25	茨木 猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形—6	中村 清太郎	本 会
群猿	墨絵	石井 鶴三	本 会
伊豆半島	油—10	茨木 猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油—10	茨木 猪之吉	本 会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油—10	茨木 猪之吉	本 会

- *山岳第101年 (2006年) の発行
- * 会報731号～742号の発行
- * インターネット・ホームページの更新
- * 海外向英文誌「Japanese Alpine News」の発行
- * 青年部会報「きりぎりす」の発行 (年2回)
- * 「中央分水嶺踏査」報告書の発行
- * 自然保護委員会会報「木の目草の芽」刊行

(4)その他目的を達成するための事業

- *第9回秩父宮記念山岳賞の授与
- *海外登山基金による海外登山の助成
- *山岳図書整備・拡充
- *山岳遭難の予防と対策に関する関係団体との協議
- *国・機関別(日本山岳協会・東京山岳連盟・日本山岳協会・日本山岳協会・HAT-J・その他)との連携
- *海外登山団体との情報交換及び機関誌の交換等
- *国内博物館・美術館との提携
- *「上高地山岳研究所」の運用
- *登山記録等の保存・整備

2. 一般事業及び会員のための事業

(1)登山、集会、施設の運用等

- 4月2日 第2回世界遺産熊野古道を歩く (事業)
- 4月29日 上高地山研開所 (山研)
- 5月7～16日 マナスル登頂50周年記念レセプション・トレッキング (於:ネパール)
- 5月26～30日 紅葉山行 (韓国智異山、事業)
- 5月 学生部所属大学山岳部新入部員歓迎会 (学生)
- 6月3～4日 新入会員のための徳本峠越えとウエスタン祭 (山研)
- 7月 探索山行「富士山の地形と植生の特徴を探る」(科学)
- 7月 気象講座 (科学)
- 7月 第27回山岳図書を語る夕べ (図書)
- 7月 クライミング集会 (学生)
- 8月2～6日 東北の山を歩く (事業)
- 9月23～24日 オータムコンサート (山研)
- 9月 第15回山を語る (図書)
- 10月5～9日 紅葉山行 (十勝三山、事業)
- 10月7～9日 全国支部懇談会 (永平寺、福井支部)
- 10月 新入会員オリエンテーション (総務)
- 11月5日 上高地山研開所 (山研)
- 11月19～22 晩秋山行 (伊豆山城越え、事業)
- 11月 第35回山岳史懇談会 (図書)
- 11月 学生部所属大学山岳部マラソン大会 (学生)
- 12月2日 平成18年度年次晩餐会 (於:名古屋 東海支部・総務)
- 12月3日 晩餐会記念山行 (事業)
- 12月30～1月3日 冬季開所 (山研)
- 1月6～8日 スキー懇親会 (事業)
- 2月 第38回山岳図書を語る夕べ (図書)
- 2月 アイスクライミング集会 (学生)
- 未定 第11回古道を歩く (図書)
- 未定 第24回図書交換会 (図書)

(2)海外登山等

- 8月～10月 学生部バンパリヒマール遠征
- 9月～1月 東海支部 ローツェ南壁 (冬期) 遠征
- *海外遠征5ヶ年計画の検討

(3)会議等

- *通常総会の開催 (5月20日)
- *理事会の開催 (12回)
- *常務理事会の開催 (12回)
- *支部長会議 (5月・7月・12月)

(社)日本山岳会 平成18年度事業計画

平成18年4月1日～平成19年3月31日

1. 公益的事業

(1)登山、講演会、シンポジウムの開催等

- 4月20日 講演会「マッキンリーの気象」(科学)
- 5月27～28日 第26回日本登山医学会シンポジウム (医療)
- 5月 宮崎家裁少年補導受託登山 (年2～4回、宮崎支部)
- 6月2～4日 上高地ウエスタン祭 (信濃支部)
- 6月24日 第2回山の博覧会「山を知ろう 山へ行こう」(山梨支部)
- 6月 救急法講習会 (指導)
- 6月 講演会「音声と映像の記録保存」(資料映像)
- 6月 講演会 (青年)
- 7月7～8日 全国山岳遭難対策協議会 (指導)
- 7月 実技講演会「山での救急蘇生法」(医療)
- 7月 山岳映画会「アーカイブ作品上映」(資料映像)
- 8月 上高地インタープリタ活動 (自然保護共催)
- 8月 自然児学校 (北海道支部)
- 8月 親子登山 (福井支部)
- 8月 青少年登山教室 (東九州支部)
- 8月 子ども登山教室 (宮崎支部)
- 9月 講演会「ドクタージウムダブ講演」(海外)
- 9月24～26日 日本・ネパール国交樹立50周年ネパール展(マナスル委員会共催)
- 10月 親と子のふれあい登山教室 (東海支部)
- 10月 スペシャルオリンピックス(知的障害者との登山) (東海支部)
- 10月 講演会「音声と映像の記録保存」(資料映像)
- 10月 山岳博物館等連絡会議 (資料映像)
- 10月 宮崎ウエスタン祭 (宮崎支部共催)
- 11月 山岳講演会 (岐阜支部)
- 11月 講演会 (青年)
- 11月 雪崩講習会 (指導)
- 11月 シンポジウム (科学)
- 11月 山岳映画会「アーカイブ作品上映」(資料映像)
- 11月 レスキュー講習会 (青年)
- 12月16日 シンポジウム「メコン河源流」(事業)
- 1月 雪崩講習会 (事業・指導)
- 1月 実技講演会「登山時の膝の痛みの予防と対処」(医療)
- 2月 県警察山岳救助指導 (宮崎支部)
- 2月 講演会 (科学)
- 2月 雪崩講習会 (指導)
- 3月 大学山岳部会議 (学生・指導)
- 未定 講演会「モーリス・エルゾグ講演」(海外)

(2)自然保護・山岳環境保全

- 6月～9月 高山植物盗掘防止パトロール受託事業 (北海道支部)
- 6月 自然観察会 (於:神津島 自然保護)
- 10月20～22日 自然保護全国集会 (於:大山 自然保護・山陰支部)
- 10月 フォーラムIN早池峰 (自然保護後援)
- 4月～9月 全国中央分水嶺踏査 (最終年)
- 通年 「高尾の森づくり」(自然保護)
- 〃 「白神山地再生育林」(青森支部)
- 〃 「狼投の森づくり」(東海支部)
- 〃 「小津権現山」遊歩道整備受託事業 (岐阜支部)
- 〃 「大山」横手道上ブナ林育成支援 (山陰支部)
- 〃 森林保全巡視受託事業 (北九州支部・熊本支部)
- 〃 「水原の森づくり」(宮崎支部)
- 〃 環境省「吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会」への参加 (関西支部・自然保護)

(3)出版等

- *「100年史」の発行

修繕費	100,000	100,000	0
租税公課	650,000	648,200	1,800
光熱水料費	650,000	800,000	-150,000
電話料	320,000	500,000	-180,000
会議費	50,000	180,000	-130,000
什器備品費	100,000	100,000	0
振替手数料	700,000	800,000	-100,000
福利厚生費	1,640,000	405,000	1,235,000
事務所管理費	1,100,000	1,640,000	-540,000
その他管理費	2,700,000	2,800,000	-100,000
負担金	60,000	80,000	-20,000
賃借料	3,240,000	3,430,000	-190,000
雑費	900,000	900,000	0
管理費計	28,410,000	29,273,200	-863,200
3 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	0	0
4 特定預金支出			
長期計画積立金支出	0	0	0
秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0
海外登山基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	0	0
退職給与引当預金支出	0	0	0
特定預金支出計	1,000,000	1,000,000	0
5 予備費			
予備費	1,000,000	1,500,000	-500,000
当期支出合計(C)	74,190,000	91,383,200	-17,193,200
当期収支差額(A)-(C)	-875,000	-798,200	-76,800
次期繰越収支差額(B)-(C)	7,606,357	10,095,832	-2,489,475

創立100周年記念事業 収支

平成18年3月末現在

1. 収支決算書 平成15年4月～平成18年3月

支 出		収 入	
科 目	金額(円)	科 目	金額(円)
登山隊助成金	7,800,000	百周年募金	66,693,229
ブロック別式典補助	2,000,000	寄付金	883,000
支部記念事業補助	2,336,000	企画・協賛収入	4,200,000
記念フォーラム	1,628,519	仕入代金戻し金	
記念式典補助	680,000	(GPS/TOPO)	3,272,360
森づくり補助	3,277,386	(カシオ時計)	14,616,000
GPS及びTOPO仕入代金	4,342,884	晩餐会会費	13,800,000
記念品代金(カシオ時計)	12,496,680	受取利息	195
式典費用	17,103,184		
施設費用(注)1	13,916,500		
旅費交通費	2,324,901		
資料購入代	664,207		
事務用品費	480,347		
通信運搬費	1,156,857		
会議費	136,310		
印刷費	4,170,476		
郵便振替手数料	561,000		
募金免税手数料	1,485,550		
雑費	2,461,056		
次月へ繰越	24,442,927		
合 計	103,464,784	合 計	103,464,784

* 支部長・支部事務局担当者会議の開催(2月)

* 評議委員会の開催(随時)

収 支 予 算 書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

科 目	平成18年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
I 収入の部				
1 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	5,000	0	
2 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	3,600,000	-600,000	
通常会費収入	62,000,000	65,500,000	-3,500,000	
終身会費収入	700,000	800,000	-100,000	
会費・入会金収入計	65,700,000	69,900,000	-4,200,000	
3 事業収入				
広告料収入	1,600,000	1,600,000	0	
印税収入	0	10,000	-10,000	
刊行物売上収入	200,000	200,000	0	
山研使用料収入	2,500,000	3,500,000	-1,000,000	
その他事業収入	2,700,000	4,500,000	-1,800,000	
事業収入計	7,000,000	9,810,000	-2,810,000	
4 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6 雑収入				
受取利息	10,000	70,000	-60,000	
雑収入	600,000	800,000	-200,000	
雑収入計	610,000	870,000	-260,000	
7 特定預金取崩収入	0	10,000,000	-10,000,000	
当期収入合計(A)	73,315,000	90,585,000	-17,270,000	
前期繰越収支差額	8,481,357	10,894,032	-2,412,675	
収入合計(B)	81,796,357	101,479,032	-19,682,675	

科 目	平成18年度予算額	前年度予算額	増 減	備考
II 支出の部				
1 事業費				
出版費	10,800,000	10,900,000	-100,000	
図書管理費	170,000	400,000	-230,000	
調査研究費	1,790,000	1,860,000	-70,000	
指導費	700,000	1,400,000	-700,000	
支部関係費	10,500,000	12,000,000	-1,500,000	
海外諸関係費	200,000	350,000	-150,000	
山岳研究所運営費	1,360,000	3,000,000	-1,640,000	
山岳研究所管理費	2,560,000	2,650,000	-90,000	
ミニ水力発電運営費	200,000	200,000	0	
海外登山補助費	1,000,000	1,600,000	-600,000	
その他事業費	9,600,000	19,850,000	-10,250,000	
印刷・製本費	400,000	400,000	0	
刊行物発送費	4,500,000	5,000,000	-500,000	
事業費計	43,780,000	59,610,000	-15,830,000	
2 管理費				
給料手当	13,000,000	13,000,000	0	
文具消耗品費	200,000	450,000	-250,000	
印刷製本費	1,250,000	1,100,000	150,000	
旅費交通費	750,000	800,000	-50,000	
通信運搬費	800,000	1,200,000	-400,000	
火災保険料	200,000	340,000	-140,000	

2. 貸借対照表

3月末現在

資 産		負債及び正味財産	
科 目	金額(円)	科 目	金額(円)
普通預金			
(三菱東京UFJ)	8,316,850	預り金	0
(三井住友)	6,361,037	仮受金	0
(みずほ)	8,724,531		
郵便振替口座	919,399		
現金	121,110		
仮払金	0	次月へ繰越	24,442,927
合 計	24,442,927	合 計	24,442,927

(注)1 施設費用のうち 13,780,000円は、一般会計に繰入れた。

定款の新旧対照表 (案)

現 行	改 定 案
第12条 会員が次の各項の一に該当するときは、総会の議決を経てこれを除名することができる。 1. 本会对し、3カ年以上諸納金を滞納し、理事会の請求があっても納入を怠ったとき。 2. 本会の名誉を傷つけたとき。	第12条 会員が次の各項の一に該当するときは、総会の議決を経てこれを除名することができる。 <u>この場合、その会員に対し、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。</u> 1. 本会对し、3カ年以上諸納金を滞納し、理事会の請求があっても納入を怠ったとき。 2. 本会の名誉を傷つけたとき。
第13条 本会には次の役員および評議員をおく。 理 事 <u>15名以上20名以内</u> (うち会長1名、副会長3名以内、および常務理事若干名) 監 事 2名 評議員 15名以上20名以内	第13条 本会には次の役員および評議員をおく。 理 事 <u>10名以上15名以内</u> (うち会長1名、副会長3名以内、および常務理事若干名) 監 事 2名 評議員 15名以上20名以内
第14条 理事および監事は入会満3年以上を経た会員(賛助会員を除く)のうちから<u>総会がこれを選挙する。</u> 2. 会長および、副会長は理事のうちから<u>総会がこれを選挙する。</u> 3. 理事は互選で常務理事若干名を定める。 4. 監事は、評議員の推薦する候補者のうちから<u>総会がこれを選挙する。</u>	第14条 理事および監事は、入会満3年以上を経た会員(賛助会員を除く)のうちから<u>総会で選出する。</u> 2. 会長および副会長は、理事のうちから<u>総会で選出する。</u> 3. 理事は、互選で常務理事若干名を定める。 4. 監事は、評議員の推薦する候補者のうちから<u>総会で選出する。</u>
第15条 評議員は会員のうちから理事会が推薦し総会に於て<u>選挙する。</u> 2. 評議員は互選によって常任評議員若干名を定める。 3. 評議員は理事を兼ねることができない。	第15条 評議員は、会員のうちから理事会が推薦し総会に於て<u>選出する。</u> 2. 評議員は、互選によって常任評議員若干名を定める。 3. 評議員は、理事を兼ねることができない。
第20条 役員および評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。<u>但し</u>再々任の場合は原則として再任々期満了後少なくとも一任期以上の任期を	第20条 役員および評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。<u>ただし</u>、再々任の場合は原則として再任々期満了後少なくとも一任期以上の任

経過した後でなければならない。 2. 補欠または増員により選挙された役員および評議員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。 3. 役員および評議員は、その任期満了後であっても、後任者が就任するまでは、その職務を行う。 4. 役員および評議員は、本会の役員および評議員としてふさわしくない行為のあった場合、または特別の事情で、その任に耐えないと認められた場合、その任期中であっても、総会および理事会の議決によって、会長がこれを解任することができる。 第22条 本会の事務処理のため、<u>主事、書記等の職員</u>をおくことができる。 2. 職員は、会長がこれを任免する。 3. 職員は有給とする。 第23条 理事会は、<u>毎年2回</u>会長がこれを招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、<u>又は</u>理事現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求のあった場合には、会長は、臨時の理事会を招集しなければならない。 2. 常任評議員は、理事会に出席し、意見を述べるることができる。 3. 理事会の議長は、会長とする。 第27条 通常総会は、<u>毎年一回、会計年度終了後2ヶ月以内に会長がこれを招集する。</u> 2. 臨時総会は、会長、理事会または監事が必要と認めたとき、いつでもこれを招集することができる。 第36条 総会および理事会の議事録は、議長がこれを作成し、議長および<u>出席代表者</u>2名以上が署名捺印のうえこれを保存する。 第37条 本会の資産は、次のとおりとする。 1. 別紙財産目録記載の財産 2. 入会金および会費 3. 事業に伴う収入 4. 資産から生ずる<u>果実</u> 5. 寄附金品 6. その他の収入	期を経過した後でなければならない。 2. 補欠または増員により選挙された役員および評議員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。 3. 役員および評議員は、その任期満了後であっても、後任者が就任するまでは、その職務を行う。 4. 役員および評議員は、本会の役員および評議員としてふさわしくない行為のあった場合、または特別の事情で、その任に耐えないと認められた場合、その任期中であっても、総会および理事会の議決によって、会長がこれを解任することができる。<u>この場合、その役員および評議員に対し、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。</u> 第22条 本会の事務処理のため、<u>事務局および主事、書記等の職員</u>をおくことができる。 2. 職員は、会長がこれを任免する。 3. 職員は有給とする。 第23条 理事会は、<u>毎年2回以上</u>、会長がこれを招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、<u>または</u>理事現在数の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求のあった場合には、会長は臨時の理事会を招集しなければならない。 2. 常任評議員は、理事会に出席し、意見を述べるることができる。 3. 理事会の議長は、会長とする。 第27条 通常総会は、<u>毎年一回以上、会長がこれを招集する。</u> 2. 臨時総会は、会長、理事会または監事が必要と認めたとき、いつでもこれを招集することができる。 第36条 総会および理事会の議事録は、議長がこれを作成し、議長および<u>当該会議において選任された出席代表者</u>2名以上が署名捺印のうえ、これを保存する。 第37条 本会の資産は、次のとおりとする。 1. 別紙財産目録記載の財産 2. 入会金および会費 3. 事業に伴う収入 4. 資産から生ずる<u>収入</u> 5. 寄附金品 6. その他の収入
---	---

第40条 本会の基本財産は、消費しまたは担保に供してはならない。ただし、本会の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会および総会の議決を経、かつ<u>文部大臣</u>の承認を受けてその一部に限り処分し、または担保にすることができる。	第40条 本会の基本財産は、消費しまたは担保に供してはならない。ただし、本会の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会および総会の議決を経、かつ、<u>文部科学大臣</u>の承認を受けてその一部に限り処分し、または担保にすることができる。
第41条 本会の事業遂行に要する費用は会費、事業に伴う収支および資産から生ずる<u>果実等</u>の運用財産をもって支弁する。	第41条 本会の事業遂行に要する費用は、会費、事業に伴う収支および資産から生ずる<u>収入等</u>の運用財産をもって支弁する。
第42条 本会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、毎会計年度開始前に会長が編成し、<u>理事会</u>の議決を経て<u>文部大臣</u>に届け出なければならない。事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。	第42条 本会の事業計画およびこれに伴う収支予算は、<u>毎事業年度</u>開始前に会長が編成し、<u>理事会および総会</u>の議決を経て<u>文部科学大臣</u>に届け出なければならない。事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。
第43条 本会の収支決算は<u>毎会計年度終了後2ヶ月以内に</u>会長がこれを作成し、財産目録、<u>事業報告書および会員の移動状況書とともに、監事の意見を附して理事会および総会の承認を受けて文部大臣に報告しなければならない。</u> 2. 本会の収支予算に<u>剰余金</u>があるときは、理事会の議決および総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、<u>また翌年度に繰り越すものとする。</u>	第43条 本会の収支決算は、<u>会長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書および正味財産増減計算書ならびに会員の移動状況書とともに、監事の意見を附し、理事会および総会の承認を受けて、毎事業年度終了後3ヶ月以内に文部科学大臣に報告しなければならない。</u> 2. 本会の収支決算に<u>収支差額</u>があるときは、理事会の議決および総会の承認を受けて、その一部もしくは全部を基本財産に編入し、<u>または翌年度に繰り越すものとする。</u>
第44条 収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは、理事会および総会の決議を経、かつ、<u>文部大臣</u>の承認を受けなければならない。借入金（その<u>会計年度内</u>の収入をもって償還する一時借入金を除く）についても同様とする。	第44条 収支予算で定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、または権利の放棄をしようとするときは、理事会および総会の決議を経、かつ、<u>文部科学大臣</u>の承認を受けなければならない。借入金（その<u>事業年度内</u>の収入をもって償還する一時借入金を除く。）についても同様とする。
第45条 本会の<u>会計年度</u>は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。	第45条 本会の<u>事業年度</u>は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
第46条 本定款は、理事会および総会において<u>おのの出席者の4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければならないことが出来ない。</u>	第46条 本定款は、理事会および総会において、<u>理事現在数および会員現在数の各々の4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の認可を受けなければならないことができない。</u>
第47条 本会の解散は、理事会および総会において<u>おのの出席者の4分の3以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければならない。</u>	第47条 本会の解散は、理事会および総会において、<u>理事現在数および会員現在数の各々の4分の3以上の議決を経、かつ、文部科学大臣の認可を受けなければならない。</u>
第48条 本会の解散に伴う残余財産は、理事会および総会において<u>おのの出席者の4分の3</u>	第48条 本会の解散に伴う残余財産は、理事会および総会において、<u>理事現在数および会員現在数</u>

以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けて、本会の目的に類似の目的を有する公益事業に寄付するものとする。 <u>第49条</u> この定款施行についての細則は、理事会および総会の決議を経て別に定める。 第50条 この定款は<u>平成8年4月11日</u>より実施するものとする。	の各々の4分の3以上の議決を経、かつ、<u>文部科学大臣</u>の認可を受けて、本会の目的に類似の目的を有する<u>公益法人</u>に寄付するものとする。 第49条 本会の事務所に、次の書類および帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これに代わる書類および帳簿を備えたときは、この限りではない。 (1)定款 (2)会員の名簿 (3)役員およびその他職員の名簿および履歴書 (4)財産目録 (5)資産台帳および負債台帳 (6)収入支出に関する帳簿および証拠書類 (7)理事会および総会の議事に関する書類 (8)庶務日誌 (9)官公署往復書類 (10)その他、必要な書類および帳簿 2. 前項の書類および帳簿は、閲覧の請求があった場合には、原則として、これを閲覧させなければならない。 3. 第1項第1号から第5号まで書類および同項第7号の書類は永年、同項第6号の帳簿および書類は10年以上、同項第8号から第10号までの書類および帳簿は1年以上保存しなければならない。 <u>第49条の2</u> この定款施行についての細則は、理事会および総会の決議を経て別に定める。 第50条 この定款は、<u>平成 年 月 日</u>より実施するものとする。
---	---

(改正理由)

第13条…平成17年度より実施している組織改革において、「理事会」を業務執行に関する意思決定機関、「委員会」を事業実施機関と位置づけたことに伴い、理事は委員会の委員長を兼任しないこととしたことおよび本会運営にかかる意思決定の迅速化を図るため、理事会定数を減員することとしたい。

第14条、第15条、第23条、第27条、第42条及び第43条…

平成16年12月14日に実施された文部科学省による実施検査における指摘によるものおよび現状と異なる点を是正したもの。

第12条、第20条、第22条、第36条、第37条、第40条、第41条、第44条、第45条、第46条、第47条および第48条…平成18年4月29日の文部科学省の変更指摘によるもの。

第49条…本会定款に書類および帳簿の備付等ならびに情報公開に関する規定がなく、平成18年4月29日、文部科学省より追加規定するよう指摘があったもの。

第49条の2…第49条に書類および帳簿の備付等に関する規定を追加したため、現行の第49条を第49条の2とした。

第50条…本件定款の一部変更について、文部科学大臣の認可のあった日より実施することとしたもの。

エヴェレスト、5月の驚きの山

—2006年プレ・モンスーンの記録から

江本嘉伸

いつの世もそこに生きる人々にとつては「初めて」の体験と刺激に溢れている。私たちの生きてきた二十世紀、二十一世紀はなかでも驚きに満ちた時代であると思う。言わずもがなのことだが、登山史の世界ではヒマラヤの高峰、とりわけ世界最高峰のエヴェレストがいつ登られるか、が二十世紀に生まれた山好きたちの関心の的だった。1924年にはジョージ・リー・マロリーがアービンと行方を絶つ劇的な遭難が起こり、その29年後、英国隊のエドモンド・ヒラリーとテンジン・ノルゲイが人類初めて頂上に立った。14座の8000⁺峰も1960年までに登られ、その後は新ルート、直登、縦走、無酸素、単独、短時間などなど高峰をめぐる挑戦が続いた。ある日、世界は気がついた。「地球で一番高い山にたくさんの方が登っている」と。

余裕のある登山者が頂上付近で撮った写真を見ればわかる。5月のある晴れた日に、南のネパール側も北の中国・チベット側のルートも、頂上を目指して登山者の列ができていく。天気の良い日は限られているので、同じ日に頂上をねらう人々が集中するのだ。

これは、登山史では想像できない情景だった。

商業公募登山隊という、システムを取り入れられたおかげである。この会報で1985年から2005年まで20年にわたり毎月「海外の山」という連載コラムを書かせてもらっていたなかで、エヴェレスト登頂者数の増加に間抜けなほど驚き続けている自分に、今でも呆れる。

「延べ2001人のエヴェレスト登頂」を書いて驚いたのは1985年12月号である。最初の1000人が登るまで初登頂以来、それでも

26年かかった。次の1000人は「わずか6年」で実現してしまったことへの驚きを書いた。

1993年3月号の会報では「まさかの登頂500人」と書いた。

そのなかで1992年1年で何人が登頂したか知っていますか？と質問した。

答えは、春にネパール側から55人、チベット側から3人、秋にネパール側から32人の計90人である。では、聞きます。2006年5月、何人ぐらいの人間がエヴェレストに立ったと思いますか？

500名近くが登頂した。「まさか」にまさかの登頂500名だ。三浦雄一郎さんの最高齢記録を3日



両足義足でチョモランマに挑んだマーク・イングリス

破った73歳の元気な日本人、荒山孝郎さんを含めて日本人の登頂者も8人を数え、これで133人となった。

これだけの人が登ればいろいろなことが起きる。もちろん、最悪は遭難死だ。多くの登頂成功の報の影で1996年の悲劇以来の深刻な遭難が次々に起きた。

5月17日「両足義足で最高峰NZ登山家、チョモランマ制覇」という記事が朝日新聞に載った。マーク・イングリスという47歳の男性で、もともと登山家だ。山岳救助・ガイドとして働いていた82年、ニュージーランドの最高峰、クック山に吹雪で2週間閉じ込められ凍傷で両足を切断するという悲劇に見舞われた。しかし、不屈の精神で再起し、今回、公募登山隊に加わってエヴェレストに挑戦、みごと5月15日登頂した、というストーリーである。

エヴェレストにはすでに盲目の登山者も登っているし、障害を持つ人たちの挑戦はこれまでもあった。しかし、足がない人の登頂なのだ。私は100⁺マランソンで、しばしば抜かれる義足のランナー

マナスル登頂50年に関する催物について

マナスル登頂50年を記念し、会としてはすでに2月に「THEマナスルの会」を開催しましたが、引き続き次の催しを予定。

1. 日本・ネパール国交樹立50周年記念協力会主催の催しに参加
 - ・会名…JN50 ネパール展 ヒマラヤとブッダの故郷
 - ・会場…秋葉コンベンションホール
 - ・主催…日本ネパール国交樹立50周年協力会
 - ・協賛…日本ネパール協会・日本山岳会 他
 - ・会期…2006年9月16日～18日 (16日は12時開場)
 - ・入場料・大人1300円、子供700円
 - ・山岳会としては日本とネパールの国交がマナスル登山を契機として拓かれた事をふまえ、会場にマナスル登山の内容を展示するかたちで参加します。
2. カトマンズでのマナスル登頂50年祝典参加と記念ツアー
 - ・5月に多くの会員に参加の申し込みをいただきながら、ネパールの政情不安のため中止となっていたマナスル登頂50年祝典参加と記念ツアーを、12月11日にカトマンズにおいて行なう旨、ネパール山岳会より連絡がありました。前回と同じツアー (おりこみチラシ参照) を企画、募集し、式典に参加します。

マナスル委員会 田邊 壽

の軽快な走りを思い出した。
10日後、イングリスは「英雄失格?」の見出しで再び朝日新聞に登場した。

「頂上付近で遭難した男性を救助せず登頂を優先していたことがわかり」問題となったという。「男性救助せず登山続ける エヴェレスト登頂めぐり議論」(共同通信)「遭難者助けずエヴェレスト制覇」N

一斉に配信され、アメリカのテレビ番組でもこのニュースを大きく扱っていた。

うーむ。9000メートル近くの高さで人を助けるなんて簡単なことではないだろうに。

「見捨てられた」登山者はイギリスのデイビッド・シャープ(34)。アジア・トレッキングの公募登山隊のメンバーとして5月15日、エヴェレストに登頂した。しかし、

下山途中8500メートル付近で動けなくなった。この日は40名を超える人々が山頂に達している。シャープのことを皆気づいたはずだが、彼を見て皆が何をしたか、今のところ具体的にはわからない。ともかく誰も助けなかったらしい。義足で登ったイングリスが登頂を報告するなかで正直にこのことを伝えたのだが、彼を英雄扱いしたメディアは一瞬にして「非人道的」と非難にまわったのである。

公募登山隊といっても、いまではいろいろある。「7サミットクラブ公募隊」のロシア人、イゴール・プリュシキン(54)は21日に8700メートルで断念、下山中に呼吸困難を訴え、間もなく死亡した。ドイツのトーマス・ウエーバーは、25日にC3を発ち、頂上へ向かった。だが、その手前50メートルでまったく目が見えなくなった。ウエーバーは仲間とシェルパたちに付き添われてセカンド・ステップ(8700メートル)まで下りたがそこで動けなくなり、死亡した。

少なくとも10人の登山者がこの5月、帰らなかった。「登頂成功」の朗報の陰で、混み

合う登頂ルートのあるところに、遺体が残されている、と言いたくなるほどの厳しい現状なのだが、時に別のドラマも生じる。

リンカーン・ホールといえば、84年、チョモランマ北壁のグレートクローワールを初登したオーストリア隊のメンバーだが、今回は「7サミット」隊にガイド格として参加、5月25日、登頂した。ところが、三角雪田を下ったところで動けなくなった。

シェルパたちは7時間も付き添って励ましたが反応なく「ホール死す」のニュースが世界に発信された。そのホールが翌26日、ほかの隊のメンバーに生きて確認され、なんと無事下山できたのだった。「見捨てられた」登山者と「助けられた」生還者。これらの出来事を含め、エヴェレスト登山は、モラルリストたちの議論の場ともなった。

ニューヨークやパリや東京での一般常識が、9000メートルの高みでも幅をきかせつつあるということである。

エヴェレストは、このように「5月の驚きの山」となったのである。

支部



だより

全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

秋田支部

第23回東北・北海道地区集会 —秋田大会—

第23回東北・北海道地区集会は、
6月3～4日、秋田県大仙市田沢
乳頭温泉郷・鶴の湯温泉で開催さ
れた。東北・北海道はもとより、
遠く福岡や広島、それに秋田支部
友として韓国山岳会同友会の李載
洪夫妻、同慶南支部申在鎬夫妻ら
92名の参加があった。

鶴の湯温泉は、秘湯として全国
的に有名でいつも満員である。し
かし、社長でもある佐藤和志委員
の好意により、1年前から予約を
して大会に備えた。さらには、山
菜の季節に山の幸を召し上がって
いただけるようにと、開催時期を
6月にした。

鶴の湯温泉別館「山の家」で行
なわれた集会には、秋田ならではの



お膳に並ぶ山菜料理と美酒に舌つづみをうつ参加者

の催し物として、「田沢の昔つこを
語る会」の語り部による民話「辰
子姫伝説」や、「白になったおばこ
(娘)」、「猿アッコ(若者)」の話
を方言で語っていただいた。遠方
の方々を気遣ってか、標準語に近
かったが、この土地に伝わる話は
面白かった。

続いて開かれた支部会議では、
次年度の開催支部等が検討され、

19年度は山形支部、20年度は設立
50周年となる宮城支部が担当す
ることとなった。

集会後、露天風呂に入る方、自
家発電用の水車や、かやぶき屋根
本陣の風情をカメラに収めている
人たちもいて、それぞれ鶴の湯を
楽しんでいた。

懇親会は、18時から行なわれ、
佐々木秋田支部長の挨拶の後、広
島から参加した本片山永年会員の
乾杯が始まった。

会場は日本間、昔ながらのお膳
がならび、イワナやわらび、たけ
のこ、うどんなどの山菜料理を楽
しみ、鶴の湯名物のやまいも鍋に舌
つづみをうっていただいた。また、
各支部から差し入れの、お国自慢
の銘柄の美酒もご馳走になった。
宴たけなわであったが、長岩秋田
支部顧問の御礼の言葉があり、次
回開催支部の今野山形副支部長の
乾杯でお開きとなった。

4日は好天に恵まれ、駒ヶ岳班、
乳頭山班、観光班、八幡平班の4
コースに分かれて懇親を深めてい
ただいた。駒ヶ岳班、乳頭山班、
八幡平班も、山頂から奥羽の山々
を十分に楽しんでいただけたこと
と思う。観光班は、佐藤(鶴の湯

社長) 会員の案内で、潟前公園展
望台から、田沢湖や駒ヶ岳、乳頭
山の雄姿を眺めていただき、さら
には角館武家屋敷等を見学した。

本年は異常気象の大雪であり、
週末には必ず雨が降るといふ現象
もあり、天候にはやきもきさせら
れた。また、登山道の状況把握に
苦心した。事前調査登山はもちろ
ん、行政にも問い合わせを行ない、
駒ヶ岳山開きにも参加するなどし
て、状況の把握に努めた。

参加会員のご協力のもと、事故
も無く終了したことに感謝したい。

(鈴木裕子)



ATLAS TREK

個人手配旅行から人気のトレックツアーや
エクスベディションのアレンジまで。充実
度が違う「旅」のプランニングをここからけ
ていきます。山旅などあらゆるジャンルを取り
扱っています。お気軽にご連絡ください。

株式会社 アトラストレック
(国土交通大臣登録旅行業1167号)

東京/〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪/〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋/〒464-0807 名古屋区千代田東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422



山形支部

月山春山山行

5月21日、月山春山山行を行なった。前日まで低気圧の天候が続き、当日の山行が危ぶまれた。しかし、予想に反して朝から見事な快晴に恵まれ、心のはずむ山行となった。7時30分、気温8度、まだ雪の回廊の残る肌寒い月山の登山口、姥沢駐車場に集合。メンバー7名は、8時30分に装備を整えて出発した。

今年の冬は近年にない豪雪のため、山は例年より10日余り春が遅く、里の桜はとうに葉桜となったのに、月山はまだまだ春遠く、残雪が3〜4メートルもある。ブナの木々の芽は固く、芽吹きは春はまだ先のようなのである。

リフトを降りてから、本格的な山に入る。アイゼンを装着し、姥ヶ岳の中腹を巻き、雪の急斜面をトラバースして、湯殿山分岐に至る。残雪をかむアイゼンの音が快適である。

時々、湧き上がり、時にはうず巻くガスの晴れ間に、残雪をいだいた主峰月山が、素晴らしい眺望



大パノラマの月山頂上で

となって眼前にせまる。

残雪は、月山山頂直下まで続いた。10時過ぎ山頂に到着。山頂ではガスも晴れ、残雪に光り輝く朝日連峰、葉山の山々や庄内平野が大パノラマとなり、眼下に広がっている。しばし、山や冥利にひたつた。姥ヶ岳は、日曜日と好天が重なり、また、スキートの競技会もあって、大勢の人で賑わっていた。14時頃、下山を終えた。下山後、姥沢駐車場で、はるか遠く白く輝く月山の山を望みながら、庄内地区会員の持参した湯田川名産の「栗汁」の鍋を囲んで、山談議に花を咲かせた。15時、次回山行を約束し解散した。(今野秀穂)

岐阜支部

5支部合同懇親山行
— 福地山 —

富山、石川、福井の北陸3支部は毎年交流山行をしてきた。また、京都と岐阜は共に今西錦司さんが設立した兄弟支部ということで、交流していた。両方が一緒になり「日本真ん中5支部」として交流山行を始めたのが6年前である。早いもので2巡目に入り、最初に担当した当支部が、今年、2回目のお世話をする事となった。

5月27〜28日、合併により高山市となった奥飛騨温泉郷の新平湯



福地山山頂にて大木場ノ辻をバックに

温泉に宿を取り、翌日は北アルプスの展望台として登山道が開設された福地山に登った。参加人員は57名。

懇親会では、早田岐阜支部長の歓迎の言葉の後、各支部の挨拶とメンバー紹介。乾杯は、岐阜支部の高木崎男名誉会員。賑やかな酒宴は、次回担当の福井支部宮本支部長の予告で締めとなった。

翌朝、天気予報は芳しくなかったが登山決行。宿から10分程の登山口に集合。その時、いきなりザーッと雨がきた。しかし、傘をさしながらでも充分歩ける幅の登山道なので、各自それなりの装備をして登り出す。そのうち雨も小降りになるが、雲はなかなか上がらない。展望がきかないなか、第1展望台、無然平、第3展望台と進み、2時間少々で頂上に着いた。その後、雨は完全にあがり、ようやく北方笠ヶ岳の前衛峰、大木場ノ辻が全貌を現わす。けれども、槍・穂高連峰や焼岳の方面はどうしても雲が切れない。諦めて大木場ノ辻をバックに記念写真を撮り、下山にかかる。

下山後、来年の再会を約束し、帰途についた。(堀義博)

東海支部

通常総会開催

5月13日、東海支部通常総会をOMCビル2階講堂で開催した。今年の総会には、本部より吉永英明常務理事(総務担当)と、石川富康愛知県岳連会長を来賓としてお招きした。

司会を佐野総務委員長、開会の辞を和田副支部長が行ない、総会を開始した。最初に寺西支部長が17年度を振り返り、日本山岳会100周年記念事業で東海支部においてはインドヒマラヤ登山隊、台湾玉山登山隊、100山ラリー、中央分水嶺踏査、などの協賛事業が行なわれ、その中で会員の活発な活動実績を紹介した。続いて、今年度予定されている二つの大きなイベントについての説明を行なった。一つは、毎年東京で行なわれていた年次晩餐会を初めて地方開催することとなり、東海支部が担当して名古屋で行なうこと。もう一つは、冬期ロツエ南壁に3度目の挑戦をする計画についてである。

来賓の紹介後、寺西支部長に議

長を委嘱し議事に入った。平成17年度の事業報告、決算報告、会計監査報告の後、拍手をもつて承認可決された。

引き続き平成18年度役員の改選、事業計画、予算案の審議に入り、活発な質疑応答が行なわれたが、これも満場一致で可決された。今年度は支部長の改選期にあたることから、寺西支部長が退任し、新支部長に和田豊司氏が選任された。副支部長には、橋村一豊氏と小川務氏が新たに選任された。その後、18年12月に予定されているロツエ南壁登山隊の計画について田辺隊長からの報告、続いて和田新支部長から今後の運営方針を中心に就任挨拶があり、議事は無事終了した。

続いて、来賓の吉永常務理事より「最近の日本山岳会を取り巻く情勢」と題して特別講話が行なわれた。その中で、文部科学省の社団法人に対する指導が厳しくなり対応に忙殺されていること、2008年度に予定されている公益法人改革では公益性が認定されなければ税制優遇などが認められず、日本山岳会の存立意義が問題になるなど厳しい情勢であるとの報告

があった。19時より、地下の支部ルームに場所を移し、総務委員会担当の懇親会となった。

佐野総務委員長の司会で、和田新支部長挨拶に続き、石川富康岳連会長の乾杯の音頭で懇親会が始まり、新執行部のメンバーや来賓の吉永常務理事を囲んでの和気藹々のムードの中で、大いに盛り上がった。

20時30分、小川副支部長の中締めの挨拶と、尾上昇万歳会会長の指導のもとでの万歳三唱で散会となった。(佐野忠則)

日本全国4000山の情報を網羅！

新日本山岳誌

日本山岳会・責任編集 日本山岳会創立百周年記念出版
菊判(1992頁)上製/クロス装/カバー掛け/函入り 定価18,900円(税込)

——新刊 好評発売中!!——

富山湾岸からの北アルプス

佐伯邦夫著/四六判272頁/定価1,995円(税込)
魅力に富み新鮮味あふれる北アルプスの北面を熟く語る。

大峯奥駈道七十五靡

森沢義信著/A5判312頁/定価2,940円(税込)
吉野から大峰山脈を熊野まで、修験道究極の道を克明に探査。

旗振り山

柴田昭彦著/A5判328頁/定価3,000円(税込)
山から山へ、電話が通じる以前の通信システムの全貌を解明。

森林はモリやハヤシではない

四手井綱英著/四六判288頁/定価2,100円(税込)
森林生態学の創始者が御年94歳にして綴る渾身のメッセージ。

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左区一乗寺木ノ本町15番地
Tel.075-723-0111 Fax.075-723-0095
URL <http://www.nakanishiya.co.jp/>

スーパーカイルス28日間 9/25~10/22

カトマンズ~チベット~カンシュガル~クンジュラプ峠~イスラマバード

¥720,000

ゆつたりチヨロマンベースキャンプ15日間 10/27~11/10

成都~ラサ~シガツェ~チヨロマンBC~カトマンズ ¥578,000



株式会社ウェック・トレック

国土交通大臣登録旅行業1662号/日本旅行業協会正会員

〒105-0003 東京都港区西新橋3-24-8山内ビル4階

電話 03-3437-8848 E-MAIL info@everest.co.jp

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です

事業委員会

智異山山行と古都慶州の旅

5月24日、参加者21名は金甯空港に集合。空港で、韓国登山アカデミーの李圭泰氏と、3人の女性から感激的な出迎えを受ける。その後、バスで登山口にある「月の輪熊ペンション」に到着。夕食時に参加者の自己紹介を行ない、朴元委員長から行動予定等の説明を受けた。

25日朝、準備体操後、天主峰を目指して出発。途中、「河東巖」と刻まれた岩の大きさに驚かされる。ただひたすら坂道を登る。道脇に可憐に咲くツツジやカタクリの花に癒されながら、急な登り坂を歩くこと約4時間半、小屋が見えて気持ちいが救われた。昼食後、帝釈峰を目指して、再び急坂をひたすら登る。途中チョワンボン（天主

峰）が見えた。帝釈峰で小休止、後は一気にチョワンボンの頂上を目指して駆け登った。

頂上到着14時。晴天に恵まれ、遠くに海も望め、360度の見事な視界である。頂上で記念写真を撮り、ひと休みしチュンボン（中峰）を経て、17時過ぎ無事に宿泊所のチバモックサンジャン（山小屋）に到着した。

26日、外は生憎の雨であった。朝食は韓国風雑煮である。雨具を着けやすくしてくれた学生達にお礼を言いつて小屋を出発。雨で足元の悪い坂道を、ひたすら下る。10時20分、下の茶店へ到着。茶店から公園入り口の食堂まで歩けば1時間以上かかるところを、李氏の配慮で車で送っていただく。食堂で、昼食に美味しいマッコリをご馳走になる。付き添ってくれた安さんが歌を披露して、場を盛り上げてくれた。食後、バスで慶州

のホテルへ向かう。夕食には石焼ビビンバを堪能した。その後、ホテルでミニ飲み会を開き、語り合った。

27日も朝から生憎の雨であったが、世界遺産のキョンジュ（慶州）、石窟庵、仏国寺、大陵苑を観光する。その後、バスでソウルへと向かう。夜は「南甯麵屋」にて打ち上げを行なった。李氏が再び見えて、大歓声があがる。その後は、飲みに行くグループ、エステに行くグループなど、各自がソウルの夜を楽しんだ。

28日、帰国の途に着いた。

（南島明典）



智異山主峰、天主峰にて

新土曜会

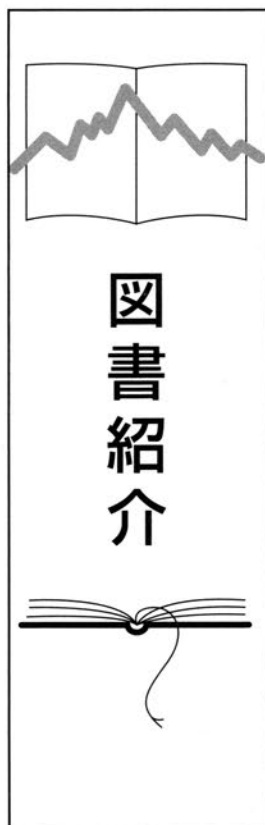
平成18年度総会報告

5月25日、山岳会104号室において、会員13名出席のもとに定例の総会を開催した。17年度の活動報告ならびに会計報告の後、18年度の活動計画を審議した。

今年度は新規企画が多い。まず年2回ほど講演会形式で「山の古典を読む会（極地探検を含む）」を会員持ち回りで実施する。会報「山」に日程と内容を掲載し、公開する。6月と9月には里山山行、8月に納涼会。4月に桃の花見、10月は山研集会、1月は新年会、2月の講演会は従来どおりとする。一番のイベントは、年度末に新土曜会年報を発刊したい。実は、昭和30年代から40年代にかけての旧土曜会の集会記録が大量に見られた。まだ一瞥しただけであるが、極めて資料性の高い記録と思われる。この集会記録のまとめを中心に、16年・17年度の活動記録を配して年報とする予定である。

新土曜会のホームページが山岳会のホームページにリンクされているので、一度立ち寄ってみてほしい。

（箕岡三穂）



図書紹介

ジェニファー・ジョーダン・著
海津正彦・訳

『K2 非情の頂』



2006年4月
山と溪谷社刊
A5判 462頁
定価 2520円

K2を登頂した女性サミッターは5人いる。だがそのいずれも、今はこの世にいない。3人は下降中に遭難、2人は生還するが他の8000メートル峰で遭難死している。著者は、この5人の女性の生い立ちや日常生活を細かく追い求める。そして、それぞれに持つ強い個性を発見し、「山が好き」という以外に共通する部分を持っていないことに気づく。

そこに山があるから登る、世界の最高峰を極めたい、自分自身へ

の挑戦など、高峰への憧れはいろいろである。しかしサミッターの約20人が遭難するというK2は、他の高峰に対して、桁外れに遭難事故が多い。それにもめげず頂上を目指して挑戦する人たち、特に女性という立場での困難さをいろいろな角度で追い求めている。

最初に登攀に成功したのはポーランド人のワンダである。共産社会での政治的不安定ななかで、彼女のソ連邦の山々などでの活躍は爽やかであり、国を挙げてのスポーツであったようだ。そして1986年夏、ヒマラヤの8000メートル峰の中から、特にK2山頂を選出した。女性サミッターとして初登頂を狙い、無事生還して世界のスポットを浴び、国を上げての祝賀ムードにひたる。

なぜ多くの危険を冒してまでも登頂するのか。女性としての初登頂の栄誉、他の女性に譲りたくない、

い、マスコミのスポットを浴びる、講演会や出版活動などの依頼があり、その目標として、より困難なサミットのK2がある。

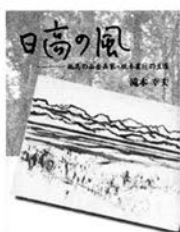
彼女達に共通している点がある。とすれば、「好きだから登る」「自分には登れる自信」であり、平凡な日常生活から脱皮し、より価値ある人生を自ら選んだ結果であり、そこにクライマーとして山があったのであろう。人生は長く生きることであろう。人生は長く生きることだけでは充実しているとはいえない。確かな自分を発見するためにK2を目指した5人の女性達に、限らない賛意を表したい気持ちになる。

世界の高峰K2、登頂した女性たちを通して本書をまとめあげた著者に、改めて感謝したい一冊でもある。

(林 栄二)

滝本幸夫・著

『日高の風―孤高の山岳画家・坂本直行の生涯』



2006年4月
中札内美術村刊
B6変型判 252頁
定価 1500円

日本山岳会の会員でもあった山岳画家の坂本直行さんは、今年生誕100年を迎える。

この本は、直行さんの生い立ちから、二中時代に札幌(さつそん)の山々に熱中していった背景、さらに北大を卒業して、原野での開墾生活や農民運動、その後、画家として生きるまでの生涯を丹念に取材した評伝である。直行さんの『開墾の記』で、過酷な原野の開拓に力を尽くしたことは知られているが、生い立ちを含めた評伝は初めてのものである。

中札内美術村では、生誕100

カラコルムは、トレッカーを待っています。

**K2・バルトロ氷河ヘリ・フライトと
コンコルディア着陸12日間** **東京発着**

出発日: 8/28・9/18発 旅行代金: **548,000円**

**K2・バルトロ氷河
トレッキング25日間** **東京発着**

出発日: 8/25・9/8発 旅行代金: **582,000円**

国土交通大臣登録旅行業第490号 / 日本旅行業協会正会員 日本コンドール協会
アルパインツアーサービス株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋1-12-1 西新橋1森ビル2F ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

年の記念に、直行さんの人となり
を小冊子にして、記念展で入館者
に配布したいとの意向であったよ
うだ。それが、帯広の菓子店六花
亭(直行さんの植物のスケッチが
シンボルになっている)や、中札
内美術村の熱意で、著者の自宅に
眠っていた原稿が甦ったと知り、
直行さんのことを伝えなかった思
いの深さを感じる。著者は、生き
ていたら新田次郎に書いてもらい
たかったと打ち明けているが、著
者と、直行さんの妻・ツルさんと
の親しい交流がなかったら、この
評伝は世に出なかったのではと思
う。ツルさんの視点から直行さん
が語られているのも好感が持てる
し、家庭的とはいいがたかった直
行さんを、いつも静かに支え、見
守り続けたツルさんの姿が印象的
である。

坂本龍馬の系譜であることを、
語ることなどなかったという直行
さんであった。だが、まさに龍馬
が新時代を目指して、激動の世界
へのめり込んでいった熱情の息吹
を、そっくり引き継いでいるかの
ようである。理想に燃えて、農民
運動に奮闘したことは意外と知ら
れていない。「自分の希望する文化

の萌芽はやがて肥沃なる土壌にな
りうるはずである。直行は再び力
強く鋤を握りしめるのであった」
の文章から直行さんの気概が伝わ
ってくる。

50歳を過ぎてからの後半生は、
画家として活躍した直行さん。「直
行さんの魂は、日高の風になって、
誰に束縛されることなく、自由闊
達に走っているに違いない」と後
書きにあるように、文中から直行
さんの息づかいが伝わってくるよ
うな力作である。(樋口みな子)

*中札内美術村で、記念展を開催
中。11月からは、高知県立坂本龍
馬記念館で「反骨の農民画家、坂
本直行展」を開催予定。

*問合せ〓中札内美術村 TEL 01
55-68-3003

佐伯克美・著

『登山、スキー 大好き』



2006年6月
私家版
240^{mm}×197^{mm} 155^円
1890円(送料別)

克美さんは魚津の佐伯郁夫さん
の奥さん。まさしく、夫唱婦隨の

山好き、山スキー狂いはご存知の
とおり『富山の山』などおしどり
執筆)。定年、子育て卒業とともに、
60歳から山スキーを熱烈再開した。
北海道85^{km}スキー・ラン、ノル
ウェー、北極圏、70歳の記念に間
宮海峡スキー踏破など、あきれる
ばかりの熱中ぶりだ。

そのほか、ニュージーランド、
欧州アルプス、カナダへのスキー、
登山など60〜70歳までの記録とエ
ッセイで、北陸中日新聞などに発
表したものを一冊にまとめた。

もちろん、地元立山・剱岳の
登攀記、植物・野生動物(熊との
遭遇!)などの自然観察・論考は
さすが元理科の先生、しっかりし
たまなざしで観察、描写していて
好ましい。女性らしくて新鮮だ。

もちろん写真のレベルはとって
も高い(郁夫氏の指導)。私家版だ
が、装丁、レイアウトはなかなか
で、写真はオールカラーである。

褒めすぎかもしれないが(この
ご夫妻と特段に親しいわけではな
い。『雪上散歩12』にノルウェーツ
アーを郁夫さんに執筆してもらっ
ただけの縁)、女性山スキー好きの
諸姉へとくにおススメ。

(松沢節夫)

*問合せ〓(株)シー・エー・ピー
TEL 076-439-3311

大阪大学山岳会・編

『後立山からヒマラヤへ』 戦後半世紀の歩み



2005年11月
大阪大学山岳会刊
A5判 204^頁

本書は、大阪大学山岳会創立50
周年記念事業の一つとして発行さ
れた記念誌である。

1949(昭和24)年創立から、
今日までの国内外における活動を、
国内の山行、海外遠征、山岳部い
まむかし、の3部にまとめている。

国内は主として北アルプスでの
活動が中心に書かれている。戦後
の物不足の時代の昭和初期、装備
や食料など粗末ななかで、苦勞と
工夫をされている様子がうかがえ
る。この頃の山行は、大なり小な
り、みな同じような状況であった。
しかし、年とともに部員も増加
し、体力も向上した。結果、後立
山縦走、黒部川上廊下積雪期初横

断、剣岳北方稜線など、着実に実
力アップされていた。

第1部には、そんな時代の節々
に参加された方々の回想記と、時
報に掲載された報告の一部を採録
してまとめられている。

第2部では、国内の実績にあわ
せて海外遠征の計画を実行するこ
とになるが、選んだ山はP29であ
る。理由について初代会長の篠田
軍治氏が「P29の10年」の中で次
のように述べている。「いかにも難
しそうな山だからである。その上
に相当な高度を持つ独立峰である
こと、マナスル三山のうちの唯一
の未踏峰である」。

1961〜70年の10年、4回の
遠征で初登頂に成功したが、登頂
後の滑落事故で登頂者の渡部洋隊
員と、ハクバ・ツェリンを失った。

「P29初登頂、10年がかりで悲願
達成」で、第4次登攀隊長であつ
た住吉仙也氏が詳細に述べている。

第3部の中に「思い出の人々」
というところで、惜しまれながら世
を去られた篠田軍治氏、水野祥太
郎氏、徳永篤司氏など7名の思い
出の記があるが、懐かしくもある
が、悲しい思い出もある。

当然ながら、大阪大学山岳会の

半世紀の活動の軌跡がよくわかる
1冊である。(茂見 猛)

笹本長敬・編／注訳

『山—西洋人のアンソロジー』



2006年3月
英宝社刊
菊版 324頁
定価 3200円

西洋の登山(思想・文化)史を
多少ともかじったものなら、ルネ
サンスの文人ペトラルカのモン・
ヴァントゥー登山が、しばしば近
代登山の嚆矢とされることは知っ
ているだろう。しかしそのうちの
何人が、その登山を綴ったペトラ
ルカの書簡を(たとえ翻訳でも)
読んでいるだろうか。私も本書で
初めて読んだ。たしかに登山その
ものの歓びと感動にあふれた文章
で、一四世紀にこういうものが書
かれたことは驚きだが、後半で聖
アウグスティヌスを引き合いに出
し、自分の行為と感情を深く反省
している。やはりペトラルカも中
世的思考を免れず、うかつにこの
詩人を「近代登山」の元祖などと

言ったら笑われるかもしれない。

本書はAnthony Kenny
「Mountains - An Anthology」

1991を底本に、山好きの英文
学者が取捨編集して翻訳した山に
関する文献のアンソロジー。古代
ギリシア・ローマや旧約聖書から
二〇世紀初頭のスマイスのドロミ
テ行まで、時代順と主題別に編ん
だ23章86編の山の文章が収録さ
れている。話には聞いたことがあつ
たが、読んでいないものがたくさ
んあった。これを座右にすれば偉
そうなことを安心してしゃべれそ
うだ。

まず巻末の40ページ「訳者解
説」から読むことをおすすめする。
実はこれは独立した学術論文だが、
西洋の古代・中世・近世の山岳観
の変遷、そして近代では主として
イギリス人のそれが見事に考察さ
れ、同好の士に至福の時を与えて
くれる。この解説にも本文のアン
ソロジーにも訳者の精緻で懇切な
注が付され、読者が無明に迷うこ
とはない。これにドイツ語文献が
加われば登山思想史の世界はもつ
とふくらむのだが、底本の性格と
訳者の専門上、それが無いのはや
むをえない。

(平井吉夫)

図書受入報告 (2006年6月)

著 者	書 名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈／購入別
河東碧梧桐全集編纂室(編)	河東碧梧桐全集(第10巻)	414pp/22cm	文藝書房	2006	編者寄贈
伊藤フミヒロ(著)	ほら! 富士山——遠足案内・富士山麓を見る、歩く、撮る	131pp/22cm	東京新聞出版局	2006	出版社寄贈
菊地敏之(編)	最新アルパインクライミング	191pp/21cm	東京新聞出版局	2006	出版社寄贈
あべみつこ・安部和夫(著)	山のABE——絵はがき通信	269pp/20cm	茗溪堂	2006	著者寄贈
服部文祥	サバイバル登山家	257pp/20cm	みすず書房	2006	著者寄贈
町田尚夫(著)	わが山の年輪——山に惹かれて60年	221pp/21cm	さきたま出版会	2006	著者寄贈
大西雄二	花と風と雲との対話——ふるさとに寄せる	219pp/22cm	鉾脈社	2006	著者寄贈
米倉久邦	60歳から百名山	351pp/19cm	新潮社	2006	著者寄贈
藤田弘基(著)	ヒマラヤ百高峰(写真集)——標高7000mを超える氷雪の山々	143pp/23cm	平凡社	2006	著者寄贈
D.ウーラー(著) 諏訪順一(訳)	パンデイト——チベット・中央アジアにおける英国測量史の一側面	528pp/22cm	日本山書の会	2006	発行者寄贈
堀込静香(編)	アフガニスタン書誌——明治期～2003	390pp/22cm	金沢文閣	2003	購入
M.S.Kohli	One More Step——An Autobiography	322pp/23cm	Pengin Books India	2005	出版社寄贈



6月理事会

日時 6月14日 18時30分～20時30分

場所 日本山岳会会議室

【出席者】平山会長、平林・橋本・田邊各副会長、吉永常務理事・石田・篠崎・野口・斎藤・藤井・石橋・古野各理事、竹中監事、今村常任評議員

【委任】賛田常務理事、大蔵・渡邊各理事、山本監事、小倉・重廣各常任評議員

●議事に先立ち、平山会長より、通常総会終了後初めての理事会であり、平成18年度が本格的にスタートすることとなる。種々の議案があるので十分な審議をお願いしたいとの挨拶があった。

【審議事項】

1 資料映像委員会：創立100周年記念連続講演会のDVD化について

2003年12月より05年4月ま

での間、5名の方々の講演と2名の方のインタビューを実施した。

今後、貴重な資料として広く利用できるよう編集し、DVD化したことの提案であるが、財務内容逼迫の折、1年間ですべてDVD化するのではなく、分割作成することとした。なお製作に当っては、極力経費節約に努力するよう伝えることとした。(承認)

2 自然保護委員会：シンポジウム「自然エネルギーと私たちの未来」後援の件

6月25日、長野県伊那市役所において「入笠山周辺における風力発電事業計画」についてのシンポジウムが開催されることへの後援。山岳環境の保全の観点から後援することについては了承するが、本会としては未だ十分な検討を加えていないことから、シンポジウムにおける発言は慎重にしてほしいとの意見があった。(承認)

3 表彰委員会委員の選任について

今年度より常設の委員会として設置することとした。平林副会長を委員長として本会会員の各層より8月末頃までに委員を選任することとし、選任を委員長に一任することとした。(承認)

4 支部化促進委員会委員の選任について

首都圏の中の北関東地区及び四国地区の支部化を促進することとしており、支部化促進委員として下記を選任した。なお、支部化に当っては、関係支部との十分な協議を行い、理解を得ることを前提にすすめることとした。

委員長：平林副会長

委員：渡邊・斎藤各理事、神崎総務委員長

事務局：吉永理事

(承認)

5 「公益社団法人」化プロジェクト・チームについて

公益法人改革関連法は5月26日、参院において可決され成立したが、未だ政令等の内容が明らかでないため、これが明らかになった時点でプロジェクト・チームを設置することとした。(承認)

6 「講師謝礼及び祝儀の支払い基準に関する内規」(案)について

各種講演会等における講師謝礼並びに関係団体及び各支部の記念行事等における祝儀の支払い基準が統一されていなかったため、内規としてまとめたもの。特に、講演会等が会費制で実施する場合は講師謝礼を会費で賄うものとし、会から補助を受けている場合は会費及び補助を含む収支計算書を財務担当理事に提出することを義務づけた。(承認)

7 「英文ジャーナル」第8号の発行について

創立100周年記念号の発行費用については、一部を平成18年度の委員会予算より支出することとした。第8号については、予算上、平成19年度以降の発行とすることで了承。なお、今後の「英文ジャーナル」の配布については、次のように扱うこととした。

●国内・JAC内：本会図書室、各支部、執筆者、国内在住の外国人には配布するが、会員については今後、有料とする。

●国外：海外山岳会、執筆者、情報提供者等への配布は今後も行うが、配布先についてはその関連性を明記した上、今後は理事会に開示する。

●在庫・管理をより厳格に行うことを求める。(承認)

8 中央分水嶺踏査事業の今後の予定について

6月17日・18日にフィナーレの踏査を予定しているが、本事業は支部の方々の協力が大きかったため、来たる2月中旬の支部長・支部事務局担当者会議の日程に合わせて「フォーラム」及び完了祝賀会を東京で実施する方向で総務(委)・分水嶺踏査(委)において検討することとした。(承認)

9 名義後援願:(財)NHKインターナショナル
8月14日・17日・8月19日・22日開催の「ヒマラヤ国際映画祭」(於:NHKふれあいホール)(平山会長が実行委員会顧問に就任)(承認)

10 写真使用願:日本テレビ放送網(株)
6月21日放送予定「午後は○○おもしろいきりテレビ」の中の「きょうは何の日」のコーナーで「トレッキングシューズ生みの親 佐藤久一朗が亡くなった日」を紹介。ウェストンの写真の使用願い。(承認・有料)

11 撮影・放送許可願:(株)テレビマンユニオン
東京放送「世界・ふしぎ発見!」カナダ 友好のピッケル」におけるアルバータ山遠征の写真撮影・放送許可願い。(承認・有料)

【報告事項】
1 「名譽会員推薦に関する内規」について
3月25日及び4月22日開催の評議員会で検討した結果、「内規」は改定せず、運用で対処することとした。

2 年次晩餐会について
5月26日、総務担当理事及び総務委員長が東海支部年次晩餐会実行委員会のメンバーと打ち合わせ会を実施。併せて会場の「ウェステイン名古屋キャッスル」を下見した。

3 マナスル初登頂50周年記念行事の日程について
先に延期となった記念行事が、12月11日カットマンズにおいて開催と決定した。記念トレッキング等については従来の計画を実施する予定で、参加者の再募集を行なうこととなった。

4 学生部「バンバリ・ヒマール遠征隊」について
ネパール政府より仮登山許可通

知を受領した。隊員7名で8月下旬より10月上旬の日程で実施するが、予算が若干オーバーする可能性があるため、理事各位の協力を仰ぎたい。

5 会員の遭難事故について

大峰山へ単独登山し不明となった畑中耕一(11831)のご遺族より協力要請があった。次回支部長会議において関係支部に伝達することとした。また、メルマガジンにも掲載する。

6 「韓国山岳云」新会長就任

Choe Hong-Goon氏が新会長に就任、本会より会長名の祝辞を送した。

7 5月度入会者15名

ルーム日誌 6月

2日 百年史委員会
5日 総務委員会 高尾の森実行委員会
6日 図書委員会 山岳編集委員会
7日 学生部 アルパインスケッチクラブ
8日 事業委員会 山岳地理クラブ
9日 山岳編集委員会 山の自然学委員会
10日 アルパインスキークラブ 01会
11日 学生部 アルパインスケッチクラブ
12日 理事会 フォトビデオクラブ
13日 山想倶楽部
14日 山想倶楽部
15日 科学委員会 中央分水嶺委員会 山岳編集委員会 学生部

16日	学生部	16日	学生会
17日	SUN燦会	17日	総務委員会 資料映像委員会
18日	山想倶楽部	18日	山想倶楽部
19日	百年史委員会 山研運営委員会 インターネット小委員会 00会 休五会	19日	百年史委員会 山研運営委員会 インターネット小委員会 00会 休五会
20日	三水会 つくも会	20日	三水会 つくも会
21日	自然保護委員会 指導委員会	21日	自然保護委員会 指導委員会
22日	山遊会 フォトビデオクラブ	22日	山遊会 フォトビデオクラブ
23日	山の自然学研究会	23日	山の自然学研究会
24日	SUN燦会	24日	SUN燦会
25日	総務委員会	25日	総務委員会
26日	学生部 アルパインスキークラブ	26日	学生部 アルパインスキークラブ
27日	常務理事会 ゆきわり会	27日	常務理事会 ゆきわり会
28日	麗山会	28日	麗山会
29日	高尾の森実行委員会	29日	高尾の森実行委員会
30日	長期登山計画委員会 中央分水嶺委員会 フォトビデオクラブ	30日	長期登山計画委員会 中央分水嶺委員会 フォトビデオクラブ
6月来室者53名		6月来室者53名	

会員異動 (6月)

退会

難波清一 (1704)
中野武司 (6484) 北海道
上野毛康男 (7107)
亀山義夫 (7187)
金子三郎 (7380)
島田 靖 (7858) 岐阜
小松達彦 (10573)
猪熊隆之 (13535)
終身会員
高橋正彦 (5901)
神崎忠男 (6002)
中西豊和 (6057)

INFORM

インフォメーション

ARTION

◆「ヒマラヤ国際映画祭 TOKYO 2006」のお知らせ

この映画祭は、本会が後援し、平山会長が実行委員会の顧問に就任しております。

日時 8月14日(月)～17日(木)・8月19日(土)～22日(火)

会場 NHKふれあいホール(定員約230名/500名)

スクリーン

上映時間 10時～21時(1日4セクション/セクション毎に入れ替え制)

チケット代金 1セクション前売り券1000円(本会ルームでも販売)

上映作品 「運命の高峰」(ニューヨーク)、
「ヒマラヤの空から」(アメリカ)、
「エベレストの娘たち」(ネパール)、
「遊牧民と呼ばれて」(ネパール)、
「天国の森」(ネパール) 他10本

公式サイト

<http://www.himalaya-tokyo.net>

◆白神山地ブナ林再生事業

青森支部

除伐や植樹などを行なう。寝袋、食器必携。できればテントも各自で用意。青森空港送迎は要相談。

日程 9月16日(土)～18日(月)

集合 16日8時 JR弘前駅東口

または10時30分 奥赤石林道ゲート

解散 18日15時 奥赤石林道ゲート

経費 食費1食500円(現地で徴収)

定員 50名

申込 8月31日までに須々田秀美宛(〒036-0103 平川市本町北柳田96-2)

☎03144@yahoo.co.jp

◆第22回全国支部懇談会

福井支部

日本の山岳文化の原点に戻り、

禅の古道を訪ねます。

期日 10月7日(土)～9日(月)

日程 AⅡ永平寺～記念山行(1万2千円)

BⅡ永平寺～記念山行～「美松」(2万8千円)

CⅡ記念山行～「美松」(1万8千円)

場所 曹洞宗大本山永平寺

行程 7日 受付 15～16時(永平寺参籠泊)

8日 記念山行、懇親会(あわら温泉「美松」泊)

9日 希望者観光案内

申込・問合 支部事務局船田まで

☎0776-266858

☎5w56p5@bma.biglobe.ne.jp

◆第13回上高地インタープリテーション

山の自然学研究会 自然保護委員会共催

期間 7月29日(土)～8月13日(日)

●ガイドウォーク

●パークボランティアによる案内

●ミニトーク

時間 19時30分から1時間

テーマ 上高地の自然、他

●こどもスケッチ会

山研運営委員会協賛、アルパインスケッチクラブ協力。

期間 8月4日(金)～7日(月)

時間 10時～正午

問合 古田寛昭まで (TEL & FAX 04

2-949-15631)

◆実技講習会「山での救急蘇生法
実技講習会」AEDの使い方も覚えよう!

医療委員会・指導委員会

「時間をかけて講習を受けたい」という希望に応え、救急蘇生実技講習会を行ないます。AED(自動体外式除細動器)もトレーナー機器を使用して使い方を学びます。

日時 9月3日(日)9時～16時

場所 日本青年館(千駄ヶ谷駅、外苑前駅などから)

講師 実技Ⅱいさお秀彦他、講義

Ⅱ野口いづみ

定員 30名(先着順)

参加費 5000円(資料・ポケット

マススク代、ポケットマ

スク持参者は3000円)

申込 8月20日までに、次の方法

で申し込む (FAX 03-32

61-4441、ハガキで

日本山岳会医療委員会宛

②jacumed@yahoo.co.jp)

問合 (医療委員会 野口いづみ、

貫田宗男)

◆関西講演会 医療委員会

日時 9月5日(火)18時30分～20時

30分

場所 京大会館

テーマ 「中高年登山者の注意点」

講演者 松林公蔵氏(京都大学東

南アジア研究所、フィール

ド医学)

定員 150名

申込 8月20日までに、次の方法

で申し込む (FAX 03-32

61-4441 ハガキで

日本山岳会医療委員会宛

②jacumed@yahoo.co.jp)

問合 (医療委員会 野口いづみ、

貫田宗男)

*参加費は無料

◆山陰・大山全国集会

自然保護委員会

日程 10月21日(土)～22日(日)

場所 大山

宿泊「ホテル大山別館しろ

がね荘」(前夜泊も可)

●第1日 自然保護委員会

全国集会(支部報告、事例

研究報告、グループ討議、

懇親会)

●第2日(大山登山、山麓

自然観察散策、鏡が成る花

回廊の3コースに分かれ

てのフィールドスタディ)

費用 ①20～22日(2万6千円)

申込 ②21～22日(1万7千円)

9月10日までに、①②の

区分、討議の希望グループ

(第2希望も)、第2日の希

望コースを明記し、川越尚

子宛(〒185-0011 国分寺市本

多3-7-31 FAX 04-21-3

21-6059

②kavagoejac@mti.biglobe.ne.jp)

*申込受付後詳細送付

◆山の古典を読む会

日時 7月27日(木)15時～17時

場所 山岳会集會室

講演者 松丸秀夫名誉会員

書名 『エンデュアランス号』シャ

ツクルトン南極探検の全

記録

著者 キャロライン・アレグザン

ダー 訳者Ⅱ畔上司

*申し込み不要

◆南極のお話 二火会

南極大陸造山運動・南極の岩登

り・タローとジロー生存の実態、

その他初期の南極観測隊の記録等

越冬体験講演会。

日時 9月12日(火)18時30分

場所 山岳会集會室

講師 芳野超夫会員

会費 5000円(申し込み不要)

◆第17回企画展「異人たちが訪れた立山カルデラ―立山新道と外国人登山」

立山カルデラ砂防博物館

会期 7月22日(土)～8月31日(木)

時間 8時30分～17時

*観覧料は無料

◆羽田栄治写真展

会期 7月21日(金)～27日(木)

会場 酒田市総合文化センター1

階ホール 9時～17時

(山形県酒田市中心西町2-

59 TEL 0234-2424-2

991)

■訂正とお詫び

6月(733)号5ページ3段7行、

「押田知事」は「神田知事」の誤り

でした。

10ページ、「上篠岳人」は「上篠岳人」

の誤りでした。ともにお詫びして

訂正します。

日本山岳会会報 山 734号

2006年(平成18年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4

サンビュウハイツ四番町

TEL 東京(03)3261-4433

FAX 東京(03)3261-4441

発行者 日本山岳会会長 平山善吉

編集人 神長幹雄

Eメール jac-kaiho@jac.or.jp

印刷 株式会社 双陽社